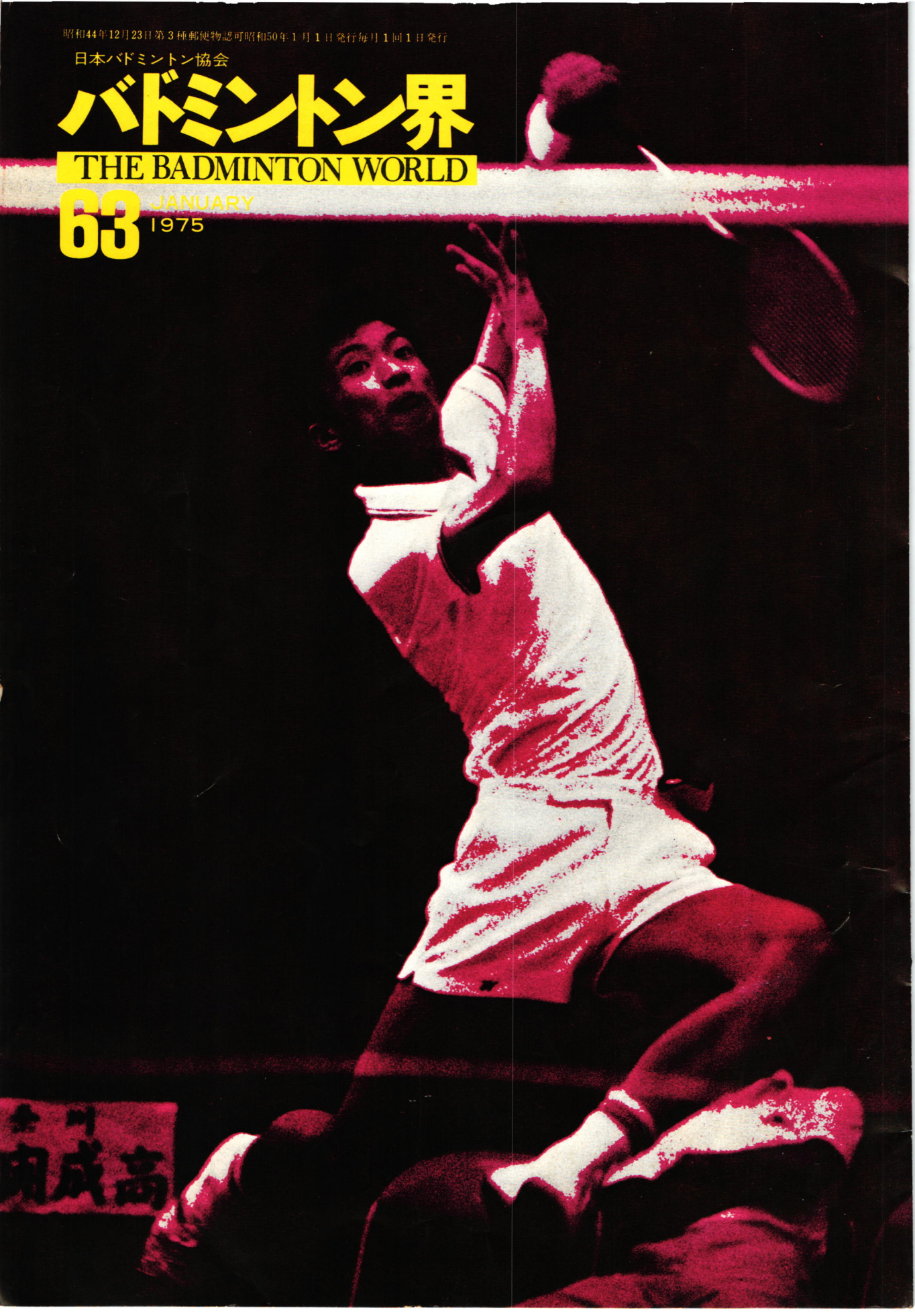
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和50年1月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

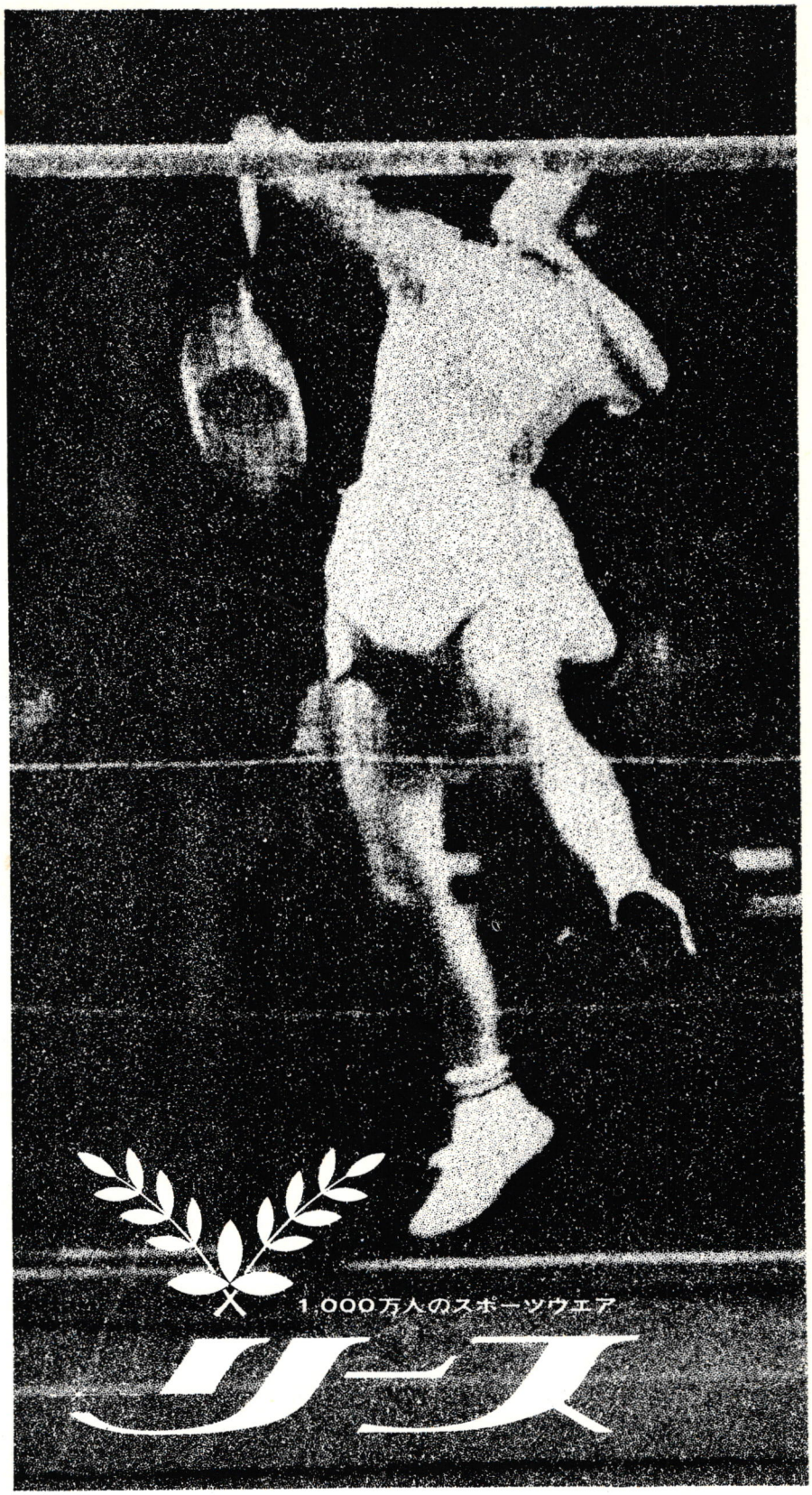
バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

63 JANUARY 1975



この一瞬!!



あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件を
プレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

K TOKYO

河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-8844・0453

THE BADMINTON WORLD・JANUARY 1975

バドミントン界 1月号・NO.63

表紙撮影・本文中写真・山田真市　同制作・小浜正道

■全日本総合選手権大会特集
銭谷堂々の初優勝 2
湯木・池田組ガッツで念願の初優勝 2
小島無念の負傷棄権 3
池田健闘よく湯木に迫る 4
井上、秋本㈱も竹中をおびやかす 5
池田・栂野尾組安定した実力 6
谷口大車輪の猛打速攻 7
徳田・秋本㈱ベスト4へ 8
湯木三冠王は逃がす 9
■全日本総合選手権大会写真集
爆発した若さ＝銭谷欽治 10
冴える頭脳的プレー＝湯木博恵 11
安定したコンビネーションで
二連覇＝池田・栂野尾 12
ガッツで壁を破る＝湯木・池田 13
女王をおびやかしたヤング 15
闘いわれに利あらず… 16
王座を明け渡した英雄たち 18
上位入賞をはたしたプレーヤーたち 19
日本を支えるプレーヤーたち
がんばるベテラン選手 21
闘い終えて 22
■体当たり実戦教室（小島一平）最終回
若者よ！銭谷選手に続け 24
■特別寄稿（地主大造）
全国大会 それは中学生の夢だった 26
■新連載●バドミントンのすべて―ABC教室・第一回
楽しいけれど手ごわいスポーツ 32
国民体育大会の規定が変わります 36
■中部日本選手権大会
長谷川と米倉に栄冠 37
各地のたより 38
読者と編集者・編集室から 40

銭谷 堂々の初優勝

男子単

湯木・池田組ガッツで念願の初優勝

一九七四年の最後を飾る全日本総合選手権大会は、十二月十一日から五日間にわたって、東京都中央区総合体育館、国立競技場代々木第二体育館で開かれた。

本大会は一九七四年の全日本ナンバーワンを決める大会だけに一回戦から熱戦がくり広げられ、男子シングルスでは優勝候補筆頭の小島一平（ラケットショップ元町）が、準決勝で栂野尾（ヨネックス・スポーツ）と対戦中左ふくらはぎ肉ばなれのアクシデントに見舞われ棄権するというハプニングがあり、決勝は栂野尾と銭谷（中央大学）との対戦になり、銭谷が若さにものをいわせて、積極的に押しまくり初優勝の栄誉に輝いた。

このほか、女子ダブルスでは湯木・池田組（河崎ラケット）が大接戦のすえ、相沢・竹中組（ヨネックス・スポーツ）を降し、初優勝、相沢・竹中組の三連覇をはばんだ。

男子ダブルスは池田（電電東京）・栂野尾組、女子シングルスは湯木、混合ダブルスは栂野尾・竹中組がそれぞれ実力を発揮して優勝した。



カップを手に何を想う銭谷

◆男子シングルス

▽一回戦

中井基夫（法大）キ武藤隆志（向陽高教）、土田証雄（日大）キ門間幹夫（新宮高教）、藤上良信（比叡山高教）2－0鏑木智博（桐生市立商）、松口金彦（早大）2－1二上敏博（高岡商高）、米沢和男（高岡市役所）キ小林康男（逗子開成高）

▽二回戦

小島一平（ラケットショップ元町）2－0中井、関一誠（早大講師）2－1長谷川博幸（勝山高）、山本茂樹（中大）2－0丸山法男（スワロー化研）、今泉勉（高岡市役所）2－0菅敏明（瓊浦高）、土田2－0谷口寛（トヨタ自工）、尾崎幹男（電電東京）2－0米正隆（福岡大）牧野光男（高岡市役所）キ栗原恒夫（日体大）、栂野尾昌一（ヨネックス・スポーツ）2－0藤上、松口2－1舟山敏彦（大潟中教）、遠藤好男（気々北海道）2－0原敏夫（法大）、田所光男（電々東京）キ森隆（新宮商高教）、本間順次（トヨタ自工）2－0八木清二（大阪大）、秋山真男（秋山紙店）2－0須藤茂（日体大）、飯野良佳孝（日大）2－0長谷川進（藤花高教）、池田信孝（電々東京）2－0中山謙吾（福岡大）、銭谷欽治（中大）2－0米沢

▽三回戦

小島2－0関、今泉2－1山本、土田2－1尾崎、栂野尾2－1牧野、遠藤2－0松口、本間2－0田所、秋山2－1飯野、銭谷2－0池谷

▽準々決勝

小島2－1今泉、栂野尾2－1土田、本間2－1遠藤、銭谷2－1秋山

▽準決勝

栂野尾2（9－15、15－12、1－2棄権）1小島

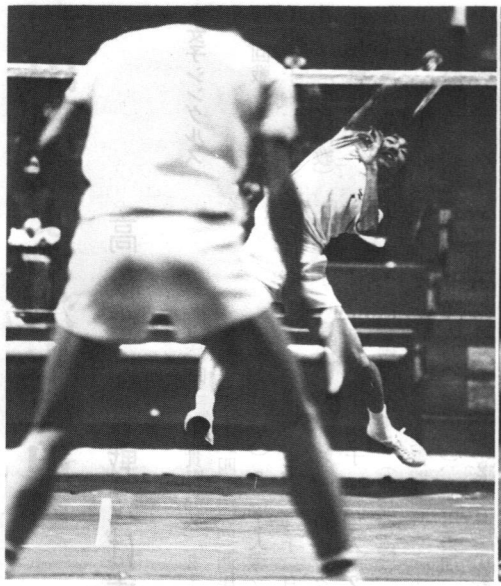
銭谷2（15－13、18－13）0本間

▽決勝

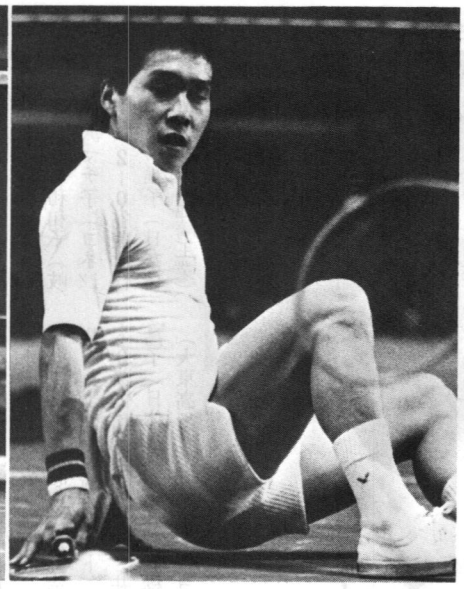
銭谷2（15－6、15－12）0栂野尾

小島 無念の負傷棄権

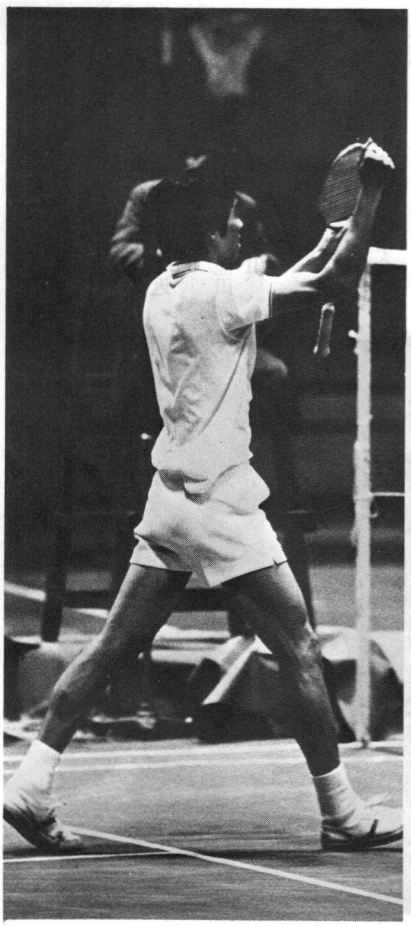
準決勝で肉ばなれに涙のむ



決勝で栂野尾に強打をあびせる銭谷



小島　転倒!!



やった!!　足取りも軽い

■栂野尾×小島

予想どおりの対戦となり、小島がベテランの味と持ち前のガッツで決勝へ進出するか、栂野尾が三年ぶりに打倒小島をはたすか大いに盛り上がった。

場内も八分の入りで、試合前から緊張感は高まっていた。

第一ゲームの小島は快調にとばし、栂野尾のフェイント、ドリブンクリアーによる押っつけを制する早い攻撃をみせ、中盤から一気にポイントを重ね、先手をとった。

しかし、第二ゲームにはいるとやや小島に疲れがみえ、栂野尾は、そのネットプレーにすばらしい冴えをみせ両者、がっぷり四ツに組んだかっこうとなった。

そして、両者ともに闘志むきだしのゲーム展開で、接戦の末栂野尾がタイに持ち込んだ。さすがに実力者同士の対決は、気持ちよく、きわどいジャッジにも不服の色をみせず、プレーとともにマナーの点でもみごたえのある内容となり、ファイナルゲームの開始が待たれた。

しかし、ファイナルゲーム開始早々、アクシデントが起こった。小島2－1でリードの時、ネット前のシャトルにジャンプして打った瞬間、小島は転倒。いったんは起き上がったものの立ち上がれず、小島はラケットをおき、リストバンドをはずして、栂野尾に握手を求めた。

ガッツ小島は、ここで肉離れという不運に見舞われ、棄権し、決勝へは栂野尾が進んだ。

■銭谷×栂野尾

栂野尾やや有利かと思われたが、銭谷は若さのあふれるプレーで一気に押し切った。

すべり出しから銭谷は、その鋭角的なスマッシュを武器に打ちまくった。一方、栂野尾は、変化のある配球で銭谷の攻撃をかわそうとしたが、銭谷はさらに早いリターンで切り返し、ストレートで栄冠を手にした。

この結果、銭谷は、昭和四十一年に小島が中大在学中にチャンピオンになって以来、八年ぶりで学生チャンピオンとなった。

―◇―◇―◇―

準決勝のゲーム中、肉離れのため棄権という不運に泣いた小島は、ただちに専門医の診断を受けたが、幸いその後の経過もよく、約一か月の休養治療で戦列に復帰できそうである。

本人はいたって元気で、来春早々練習を再開するといった張り切りようで、周囲の人々がとめるのにけんめいといったところとか…。

池田健闘よく湯木に迫る

高校生は善戦及ばず

湯木　女王の座ガッチリ守る



◆女子シングルス

▽一回戦

山本邦子（一条高）2－0柿崎きち子（印旛高教）

▽二回戦

湯木博恵（河崎ラケット）2－0山本、佐伯智子（日体大）2－0高崎弘子（三菱電機伊丹）、近藤小織（日女体大）キ堀川栄美子（青陵高教）、徳田敦子（四条畷短大）2－0名和和子（岐北中教）、相沢マチ子（ヨネックススポーツ）2－0谷美津代（日体大）、石田雅子（日女体大）2－0田村静子（地崎工業）、塩崎睦子（志貴野高教）2－0植野恵美子（四条畷高）西尾真理子（日体大）2－1大塚ソノエ（青陵高）、千葉陽子（日女体大）2－0石崎茂子（電々東京）、陣内裕子（日体大）2－0横田かすみ（北辰電機）、尼崎初子（三菱電機伊丹）キ古谷成代（日体大）、池田美加（河崎ラケット）2－0池田静江（トヨタ自工）、秋本八代美（日体大）2－1沼能久子（旭光学）、柴山きよ子（河崎ラケット）2－0関根和子（青陵高）、井上昌子（日体大）2－0北島稔子（大東高教）、竹中悦子（ヨネックススポーツ）2－0原田美智子（山陽女高）

▽三回戦

湯木2－0佐伯、徳田2－1近藤、相沢2－0石田、西尾2－0塩崎、陣内2－1千葉、池田2－0尼崎、秋本2－0柴山、竹中2－1井上

▽準々決勝

湯木2－0徳田、西尾2－0相沢、池田2－1陣内、竹中2－1秋本

▽準決勝

湯木2（11－7、11－8）0西尾

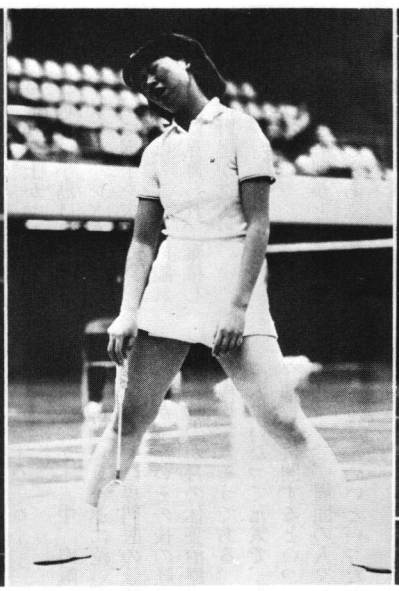
池田2（11－6、11－4）0竹中

▽決勝

湯木2（11－10、11－0、11－4）1池田



山本邦子（奈良一条高）

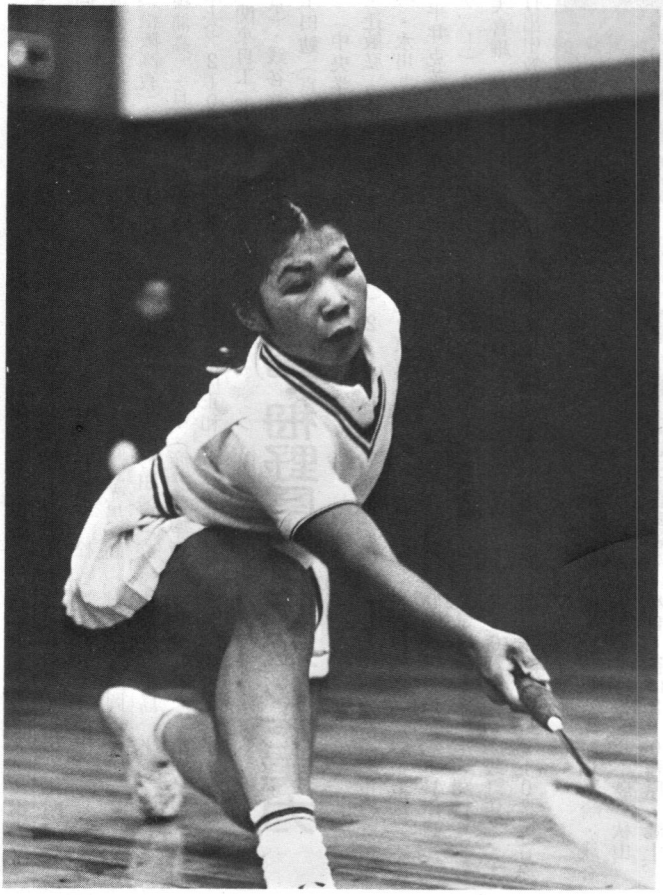


植野恵美子（四条畷高校）



関根和子（新潟青陵高）

竹中をおびやかした井上昌子（日体大）



井上、秋本(姉)も竹中をおびやかす

♥池田×竹中

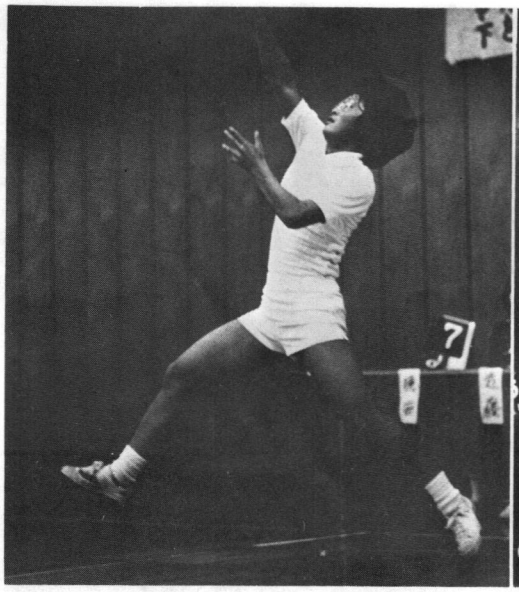
対井上戦、対秋本戦と苦しい戦いを勝ち抜いてきた竹中も、ついに池田の力強いプレーの前に屈してしまった。池田は調子もよかったが、それよりも精神的充実が大きく貢献していたようである。池田にしては珍しく闘志をおもてに出し、勝って握手が終えると、ラケットをかかえ、スタンドへかけ上がっていった。

♥湯木×池田

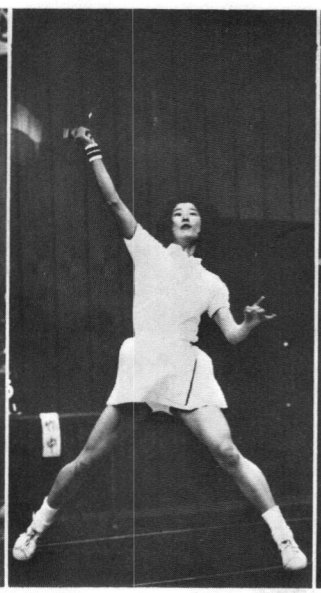
ペア同士の対戦で、もし池田に気おくれがあれば、あっけなく勝負がついてしまうのではないかと思われたが、池田は、気おくれどころか、逆にノビノビとしたプレーを見せ、接戦の末第一ゲームをとる殊勲で先制した。

しかし、世界チャンピオン湯木は、第二ゲームにはいると池田の弱点をようしゃなく攻め、何とラブゲームでファイナルにもちこんだ。このあたりは、さすがと思わせるものがあった。

第三ゲーム、池田は善戦健闘したが、湯木の頭脳的なプレーの前に、金星の夢を破られた。



近藤小織（日女体大）



原田美智子（山陽女子高）



大塚ソノエ（新潟青陵高）

池田・栂野尾組 安定した実力

連続優勝をはたした池田(右)と栂野尾



◆男子ダブルス

▽一回戦

西城博（宇治山田高教）・平田欽也（松阪高教）2－0福本・管（瓊浦高）、日下昇・横田泰徳（中大）2－0笠井教行・高橋清（関東自工）、尾崎幹男（電電東京）・銭谷欽治（中大）2－0上田勉（京葉高教）・安彦三千一（中央学院高教）、中井基夫・辻敏弘（法大）2－1鷲尾正一・水川九洋（スワロー化研）、平井克英・今井茂満（河崎ラケット）2－1工士恭司・坂本美喜雄（熊商大）、藤原健二（打出中教）・藤上良信（速野小教）キ須藤茂・栗原恒夫、鈴木健二（電々東京）・山本茂樹（中大）2－0折井直則・松口金彦、関村順治・牧野光男（高岡市役所）2－0杉田博（立野高教）・瀬戸孝（産業能率短大職）、米山正和・原敏夫（法大）2－1田所光男・浜谷安裕（電々東京）、堺栄一・菅原弘貴（河崎ラケット）2－0長谷川博幸・諏訪芳博（勝山高）

▽二回戦

池田信孝（電々東京）・栂野尾昌一（ヨネックス・スポーツ）2－0西城・平田、尾崎・銭谷2－0日下・横田、今泉勉・河村博之（高岡市役所）2－0中井・辻、小島一平（ラケットショップ元町）・秋山真男（秋山紙店）2－0平井・今井、藤原・藤上キ遠藤好男（電々北海道）・木戸純一（常盤木高教）、本間順次・谷口寛（トヨタ自工）2－0鈴木・山本、関村・牧野2－0米山・原、飯野佳孝・土田証雄（日大）2－0堺・菅原

▽準々決勝

池田・栂野尾2－0尾崎・銭谷、今泉・河村2－0小島・秋山、本間・谷口2－0藤原・藤上、飯野・土田2－0関村・牧野

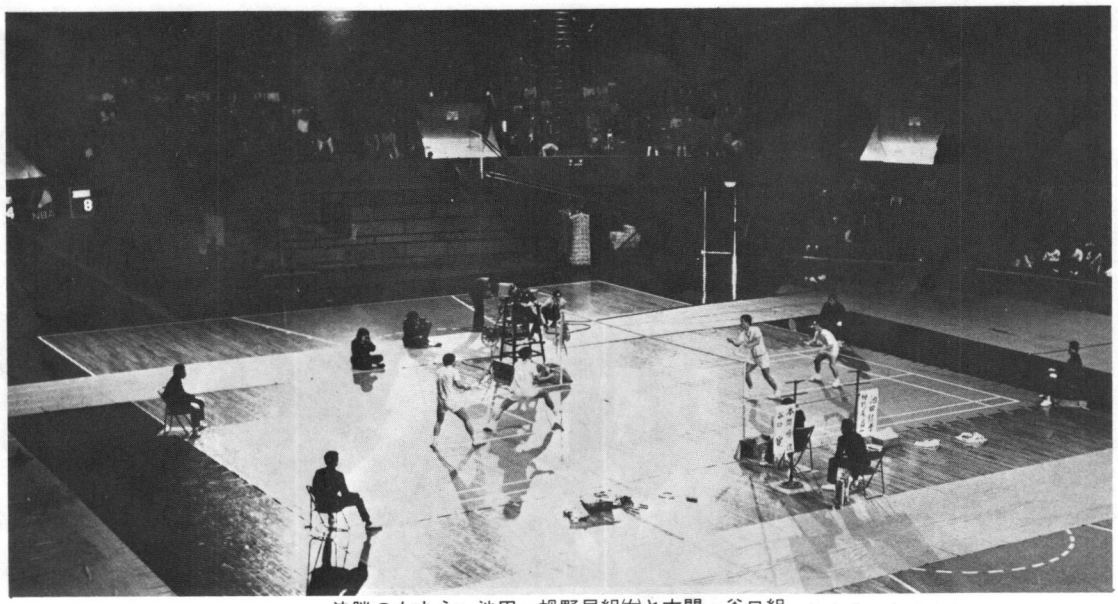
▽準決勝

池田
栂野尾 2 (15－12)(15－9) 0 今泉
河村

本間
谷口 2 (16－18)(15－3)(15－12) 1 飯野
土田

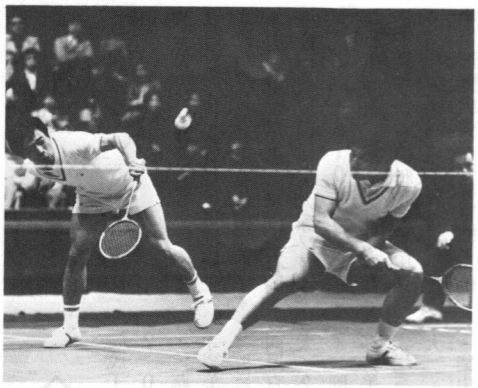
▽決勝

池田
栂野尾 2 (15－7)(15－9) 0 本間
谷口

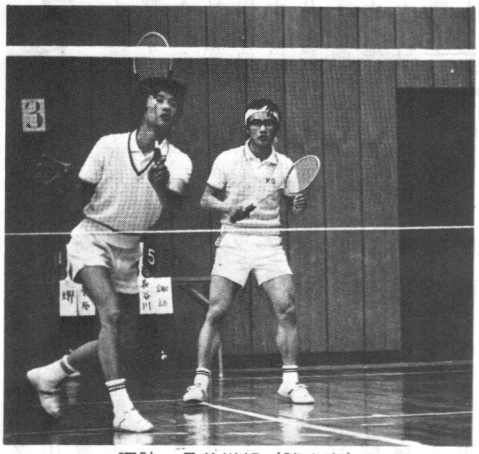


決勝のもよう。池田・栂野尾組(右)と本間・谷口組

谷口 大車輪の猛打速攻

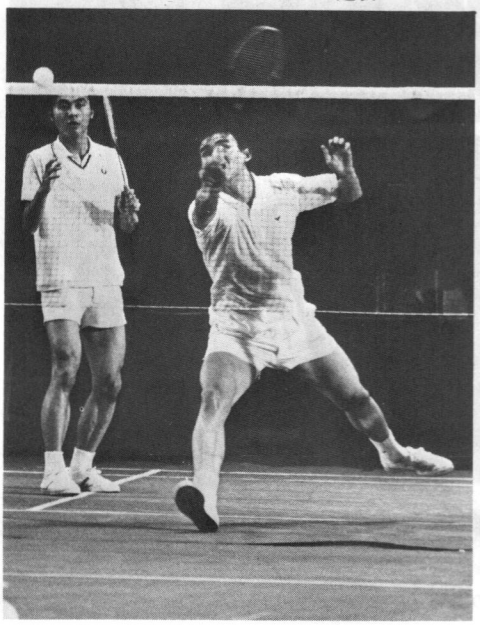


三位の今泉・河村組



諏訪・長谷川組（勝山高）

猛烈なアタック・谷口の速攻



◆本間・谷口×飯野・土田

初優勝をめざし順調にコマを進めてきた飯野・土田組は、自信をもってコートにはいった。

一方、本間・谷口組は二回戦の鈴木・山本組との対戦で苦しめられ、このぶんではどうなることかと思わせた。

しかし、コートにはいると、本間・谷口組はのびのびとプレーをしており、余裕も感じられた。飯野・土田組も前半は自分たち本来のペースでゲームを進め、決めるべきところで決め、着実にポイントを重ねていった。

中盤にさしかかるころから谷口が見違えるような動きをみせ、ネット前にはとび込むようにプッシュし、さがっては豪快なジャンプ・スマッシュをみせるようになった。

飯野組は第一ゲームをセッティングの末勝ち取ったものの、チェンジ・エンドの際の両ペアの表情は対照的で、〝よしよし、これでいいんだ〟といった感じではずむ足取りでコートを代わる本間組に対し〝こんなはずでは…〟という表情をみせる飯野組だった。

この違いは、そのまま第二ゲームのコートに現われた。

谷口は、サービス・レシーブからたたみかけるように攻撃を浴びせ、飯野組にまったくついているスキをみせず、まるでフリーバッティングのようであった。

本間にひっぱられていた感じの強かった谷口は、この試合に関するかぎり、本間をリードし、実に余裕のある、また思い切りのいいプレーに終始した。そして第二ゲーム飯野組に与えたのはわずか3ポイントであった。

ファイナルゲームにはいっても谷口の好調は続き、終盤接戦となったものの、本間がコーナーをつき、谷口が決めるといったパターンはくずれず、フォアから飯野の肩口にたたきつけるクロスのスマッシュでサーブ権を奪いとると、そのまま逃げ切った。

勝った瞬間、本間・谷口の両選手はもちろん、スタンドで応援していたチームメイトも優勝したような喜びよう。大柄な体を縮めるようにした弱気なプレーの見られることの多い谷口も、この日は見ちがえるような出来で、決勝進出をはたした。

◆池田・栂野尾×本間・谷口

前日の絶好調を持続しているかどうかが本間組に対する最大の焦点だったが、残念ながら、準決勝に比べると動きもにぶく、なかなか攻撃のチャンスをつかめなかった。

池田・栂野尾組は、たくみに中間へボールを落とし、池田が前、栂野尾が後という理想的な形でポイントを重ね、栂野尾は効果的にフェイントを用い、池田も前でよくコースを読み、積極的に動き回った。

この試合に関するかぎり、池田組が一枚上といった感じで、本間組を危げなく降し、連続優勝をはたした。

本間・谷口組は、準決勝でみせたプレーをいつもできれば、大型ダブルスとして非常に大きな存在となりうるが、課題はその安定性をどう養うかということであろう。今後の努力に期待したいものである。

徳田・秋本(妹)ベスト4へ


3位の健闘 秋本・徳田組

◆女子ダブルス

▽一回戦

京田恵津子（黒谷）・宇都裕子（河崎ラケット）キ鎌田三枝子（大野中教）・黒沢照江（石岡小教）、関根和子・大塚ソノエ（青陵高）2－0池尻千恵子（茂原高教）・栗原えり子（我孫子高教）、石田雅子・吉田孝子（日女体大）2－0宮本小夜子・天野広美（北辰電機）、藤井由美子・沼能久子（旭光学）2－0辻かおる・貝瀬かほり（成安女高）、秋本幸子・徳田敦子（四条畷短大）2－0中津和美・桐山綾子（一条高）、石崎茂子・今田真知子（電々東京）2－0小野裕子（大利根小教）・佐藤とき江（天川小教）、小寺裕美・日原禎子（山陽女高）キ古谷成代・佐伯智子（日体大）、西尾真理子・秋本八代美（日体大）2－0佐藤真弓・雑賀富士子（園田学園高）、田村静子・高野美千子（地崎工業）2－1大場三弥子・村田嘉江（日女体大）、塩崎睦子（志貴野高教）・柴山きよ子（河崎ラケット）2－0柿崎きち子（印旛高教）・時田栄子（姉崎小教）、谷美津代・井上昌子（日体大）2－0広沢功子（東海女短教）・名和和子（岐北中教）、陣内裕子・山森明美（日体大）2－0原田美智子・藤原敦子（山陽女子高）、千葉陽子・松田敦子（日女体大）2－0田所静子・石原英子（高松琴平電鉄）、海老恵美子・平野幸（青陵高）2－0我妻たき子・佐久間雅子（ヨネックススポーツ）

▽二回戦

相沢マチ子・竹中悦子（ヨネックススポーツ）2－0京田・宇都、石田・吉田2－0関根・大塚、秋本・徳田2－1藤井・沼能、石崎・今田2－0小寺・日原、西尾・秋本2－0田村・高野、谷・井上2－1塩崎・柴山、千葉・松田2－0陣内・山森、湯木博恵・池田美加（河崎ラケット）2－0海老・平野

▽準々決勝

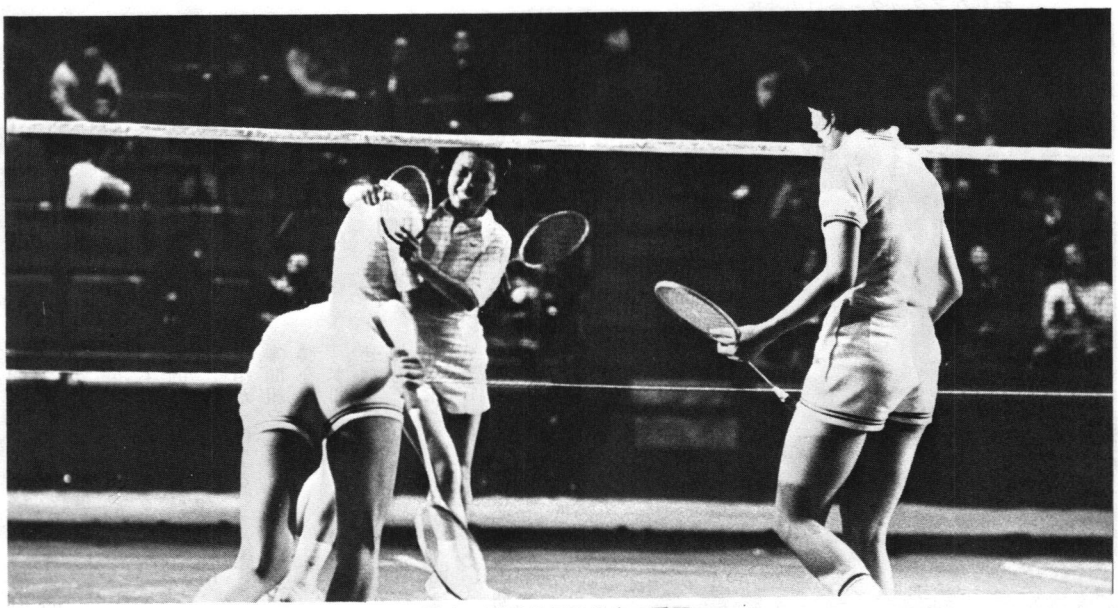
相沢・竹中2－0石田・吉田、秋本・徳田2－0石崎・今田、西尾・秋本2－0谷・井上、湯木・池田2－0千葉・松田

▽準決勝

相沢			15	15	15		
竹中	2		15	8	5	0	秋本
湯木			15	15	7		
池田	2		15	11		0	西尾

▽決勝

湯木			15	8	15		
池田	2		15	13	6	1	相沢


湯木・池田組優勝決定の瞬間

◆混合ダブルス

▽一回戦

鈴木健二・小笠原泰子（電々東京）2－0山本敏彦・多田慧子（福井市役所）、木村敏男（電電北海道）・高野美千子（地崎工業）、2－0吉田邦男・紅野理栄（日立戸塚）、東条義昭・平井佐代子（琴平電鉄）2－0安彦三千一（中央学院高教）・時田栄子（姉ヶ崎小教）

▽二回戦

栂野尾昌一・竹中悦子（ヨネックススポーツ）2－0鈴木・小笠原、平井克英・柴山きよ子（河崎ラケット）2－0上原章（笠松中央公民館）・名和和子（岐北中教）、佐藤信夫・岩崎映子（北辰電機）2－0杉田博（横浜立野高教）・杉田良子（日本コロムビア）、木村・高野2－0山本洋彦・高橋美江（北辰電機）、堺栄一・湯木博江（河崎ラケット）2－0松尾益吉（松家高教）・北島稔子（大東高教）、田所光男・今田真知子（電々東京）2－0神戸照（竹田小教）・中村正枝（福井市役所）、東条・平井キ木戸純一（常盤木高教）・相沢マチ子（ヨネックススポーツ）

▽準々決勝

栂野尾・竹中2－0平井・柴山、今井・池田2－1佐藤・岩崎、堺・湯木2－0木村・高野、田所・今田2－0東条・平井

湯木 三冠王は逃がす

闘志むきだしで初の栄冠

――湯木・池田組

♥湯木・池田×相沢・竹中

第一ゲーム、調子の出ない相沢組に対し、湯木組は4オールから7ポイントを連取するなど一方的にリードし、先取した。

しかし、第二ゲームにはいると、相沢組は上からの攻撃ができるようになり、9－8からの接戦をぬけだしファイナル・ゲームとなった。

この時点では、両者のキャリアからみて、やはり相沢組の優位はゆるがぬと思われた。ところがファイナル・ゲームは、湯木のけんめいのレシーブと池田の攻撃がうまくかみ合い、ポイントは12－5と湯木組のリードとなった。このあと、相沢・竹中は意地をみせて、14－12まで追い上げ、逆転への足がかりをつかんだ。マッチポイントを握った湯木・池田は、池田に優勝を意識したかたさがでて、何でもないミスを続け、サーブ権を失った。しかし、このピンチも湯木の好リードで切り抜け、最後は池田がスマッシュを決めて念願の初優勝を手にした。

いつもは、ポーカーフェイスで淡々とプレーを続ける池田だが、この日は闘志をはっきりと表情に出し、大きなゼスチュアで自分自身を激励しながらシャトルを追っていた。

この闘志が初優勝をもたらしたといえよう。

★栂野尾・竹中×堺・湯木

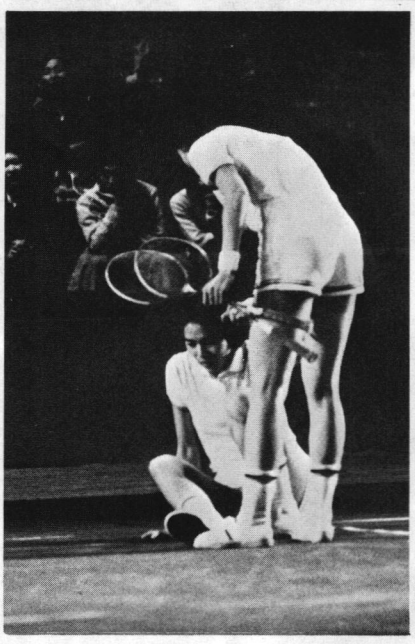
この一戦で勝てば、湯木は三冠を手にすることになったが、栂野尾・竹中組のカベは厚く、惜しくもユメは実現しなかった。栂野尾・竹中組のコンビネーションは絶妙で、攻めてよし、守ってよし、相手にまったくつけこむスキを与えずに連続優勝を手にした。

▽準決勝

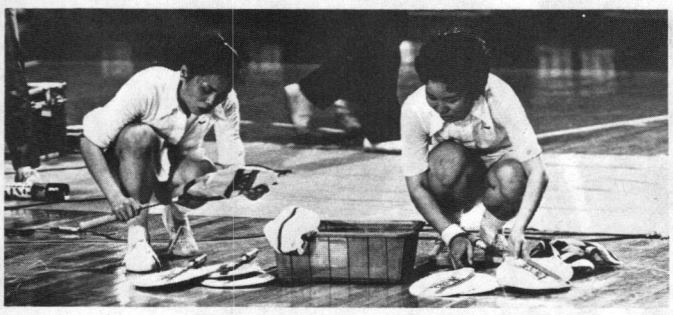
栂野尾 竹中	2	15－10	15－7	10－15	1	今井 池田
堺 湯木	2	15－11	15－7		0	田所 今田

▽決勝

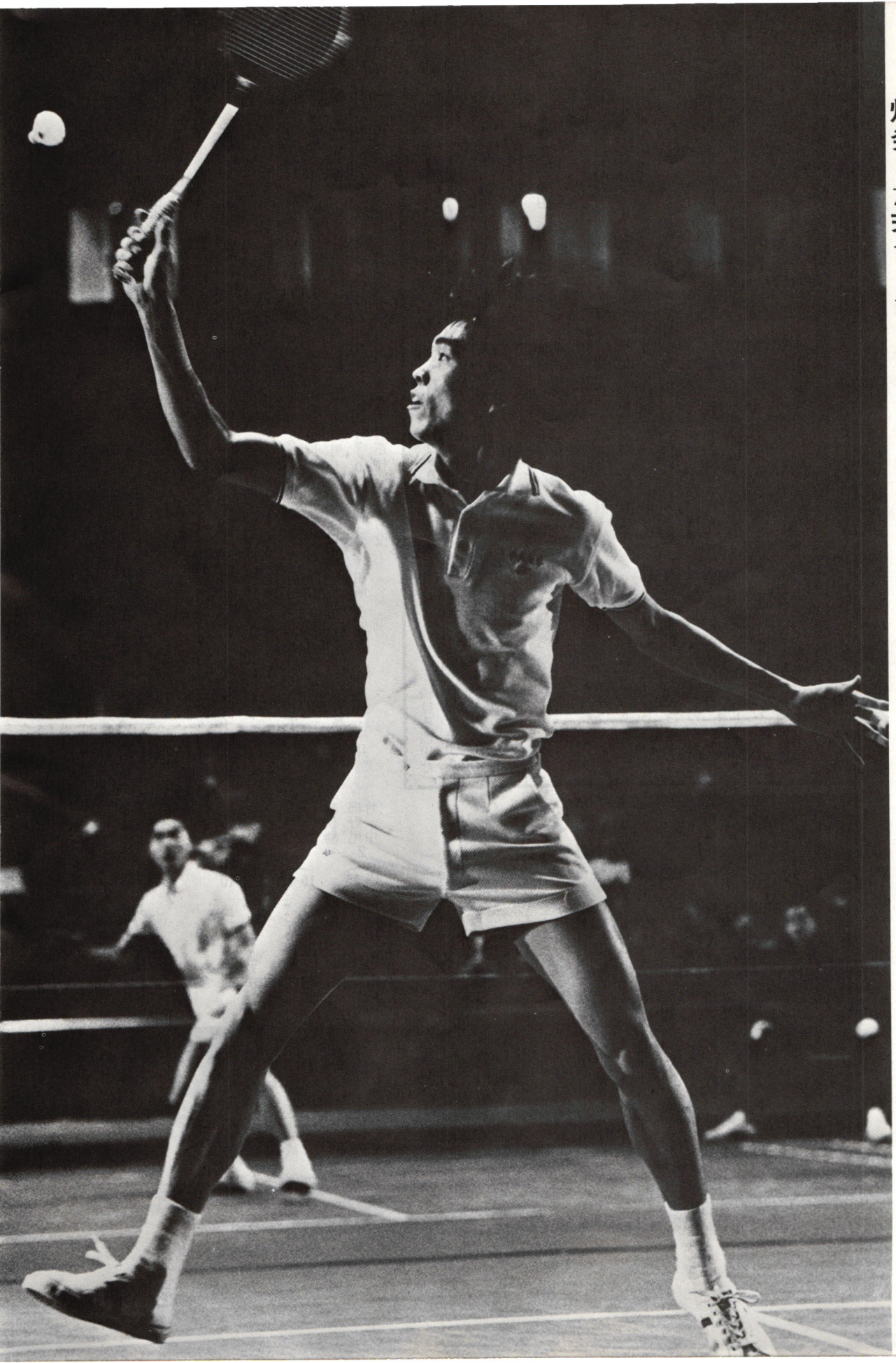
栂野尾 竹中	2	15－5	15－3		0	堺 湯木



転倒した竹中をたすけ起こすパートナー相沢◀



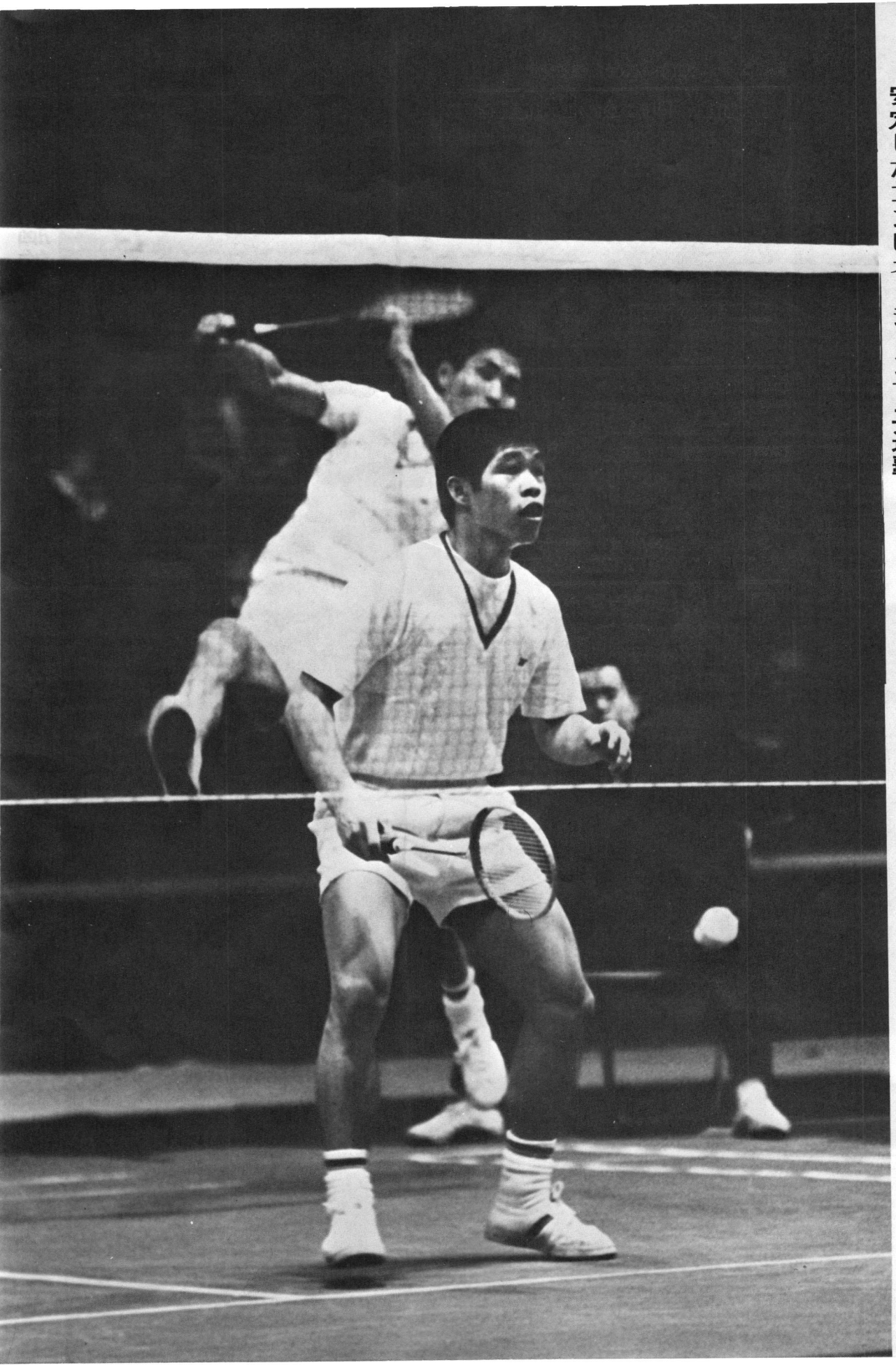
念願の初優勝をはたしホッとする湯木・池田▼



爆発した若さ＝銭谷欽治



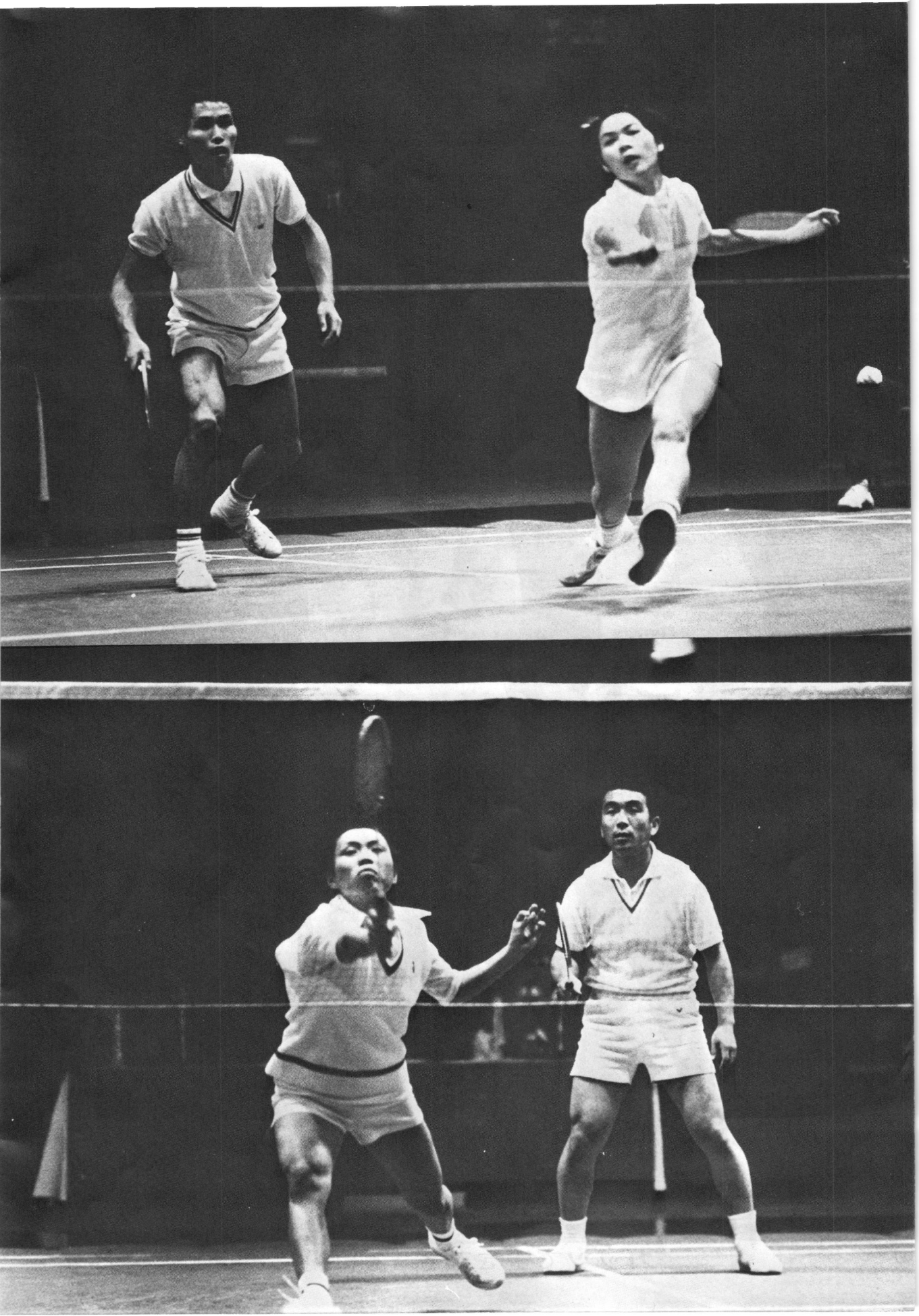
冴える頭脳的プレー＝湯木博恵



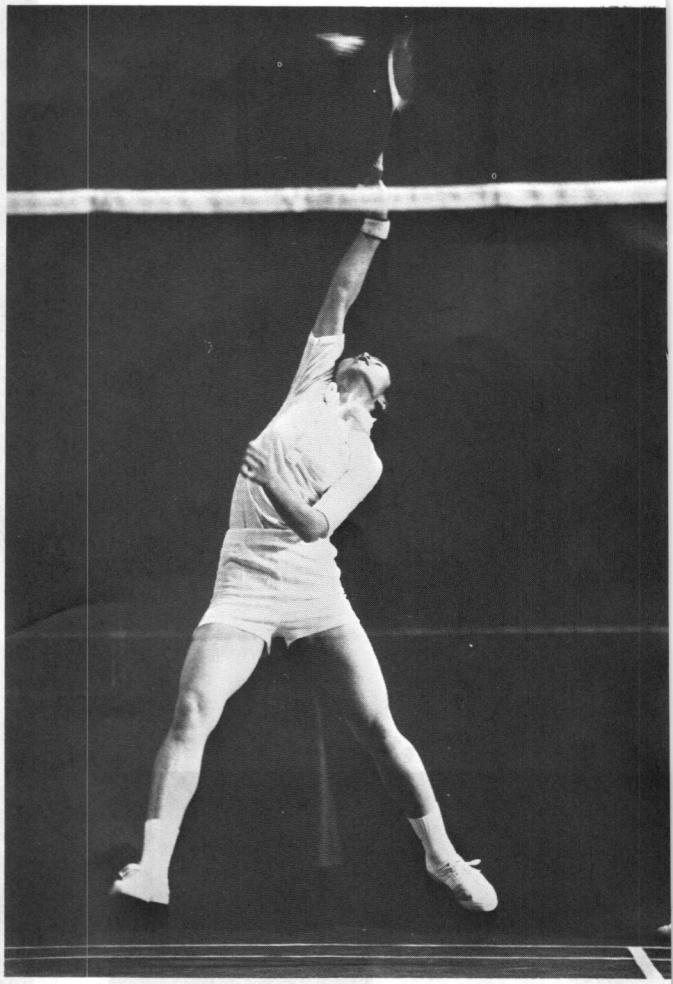
安定したコンビネーションで二連覇＝池田信孝・栂野尾昌一



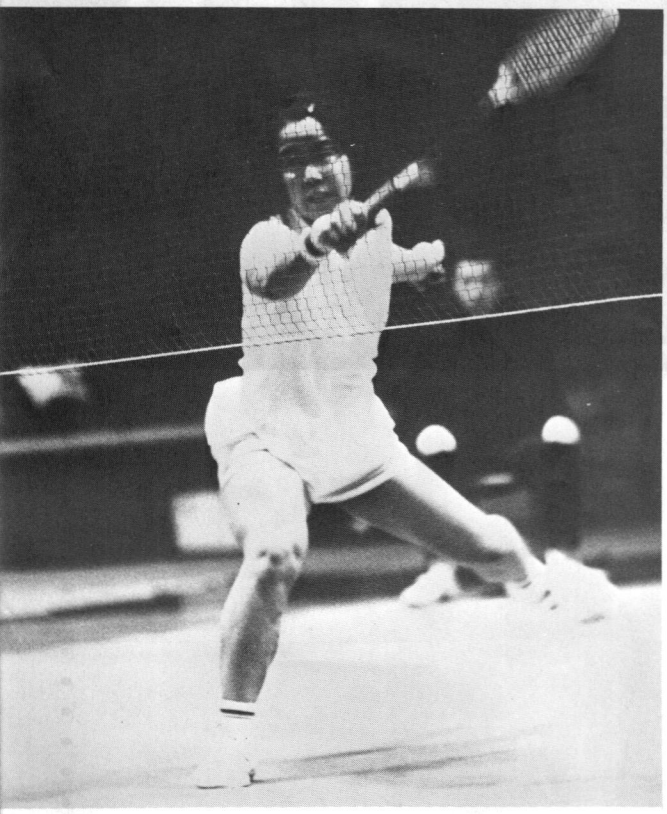
ガッツで壁を破る＝湯木博恵・池田美加



女王をおびやかしたヤング



堂々二位に入賞した池田美加の逆カット

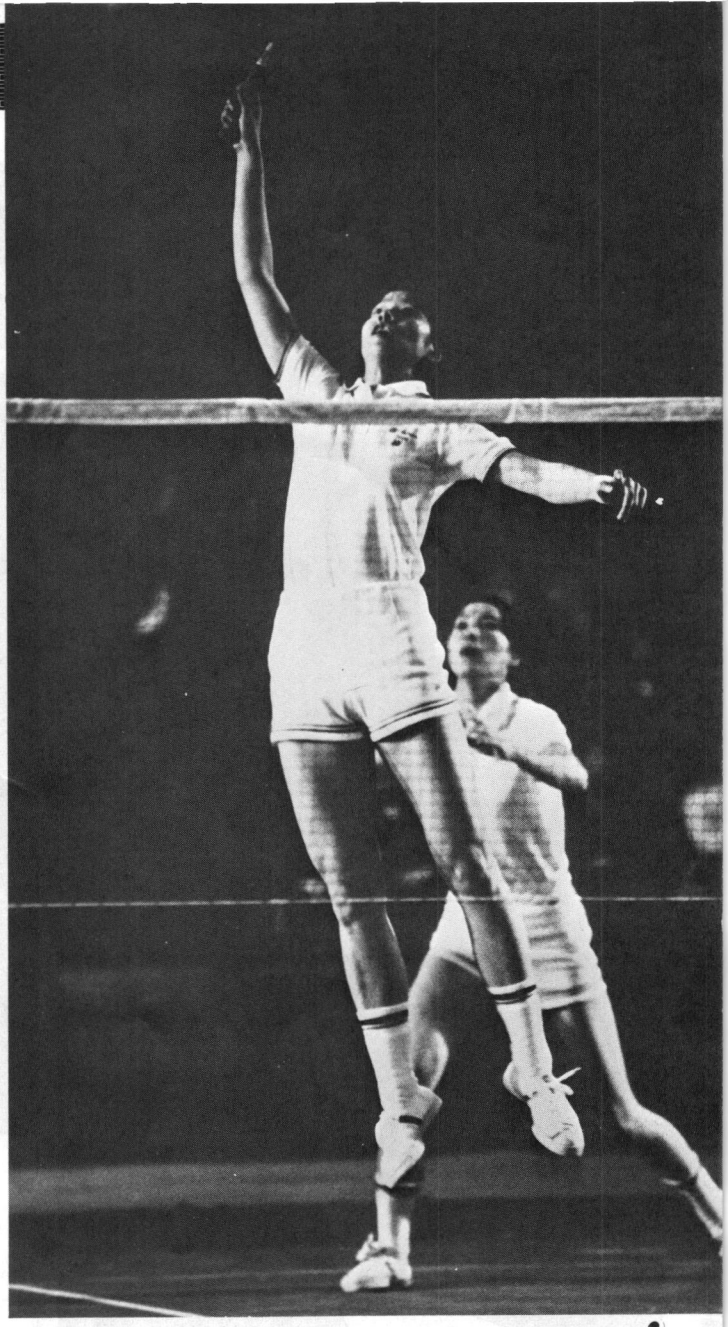


冷静な試合運びで三位になった西尾真理子

右上 男子ダブルスでも通用しそうな梅野尾昌一・竹中悦子

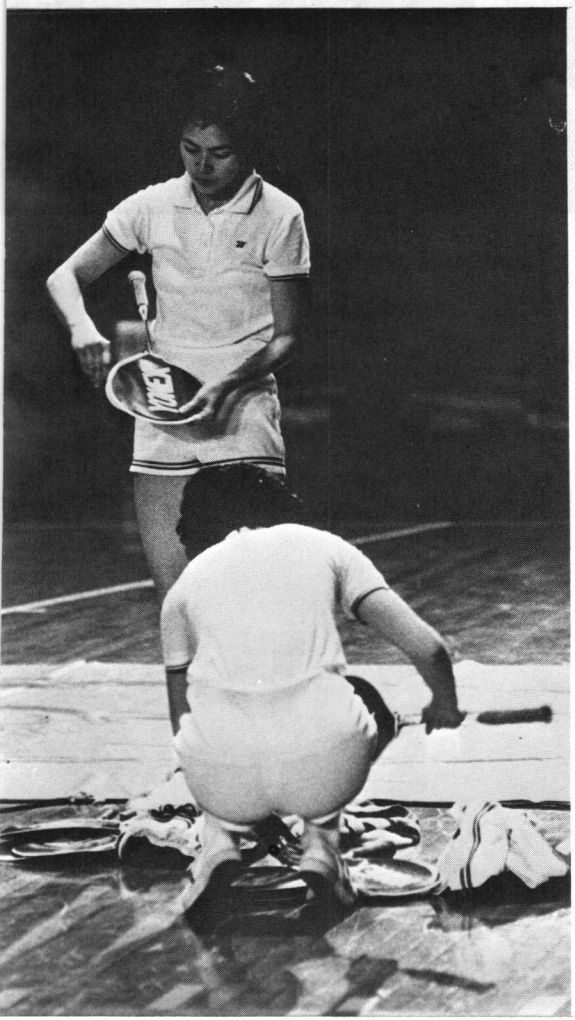
右下 三冠はならず堺栄一・湯木博恵

相沢マチ子・竹中悦子



三連覇六度目をめざしけん命にねばったが……

くやしさと寂しさを隠してコートを去る



闘いわれに利あらず……

小島一平



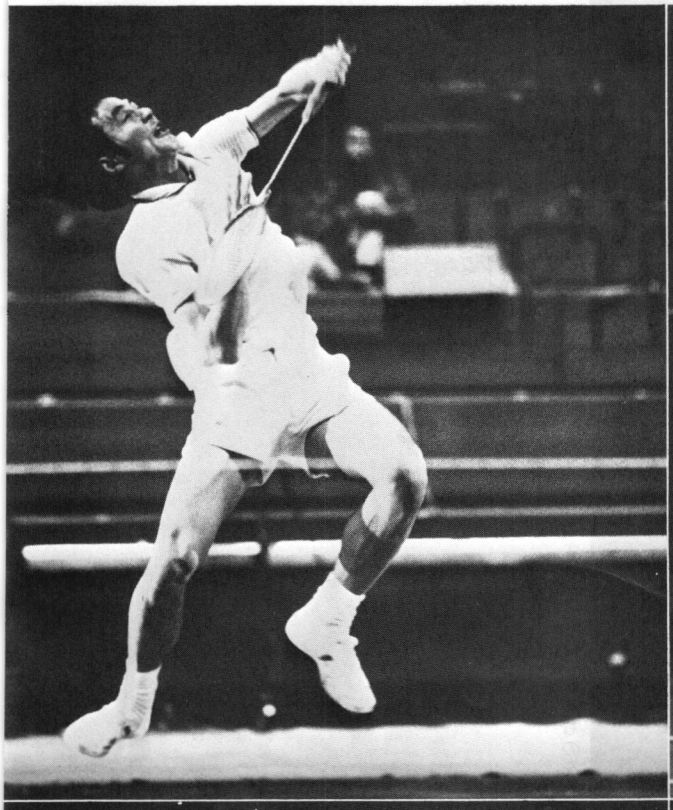
三年連続八度目をねらうプレーのはしはしに〝さすが〟と思わせるものを見せたが……



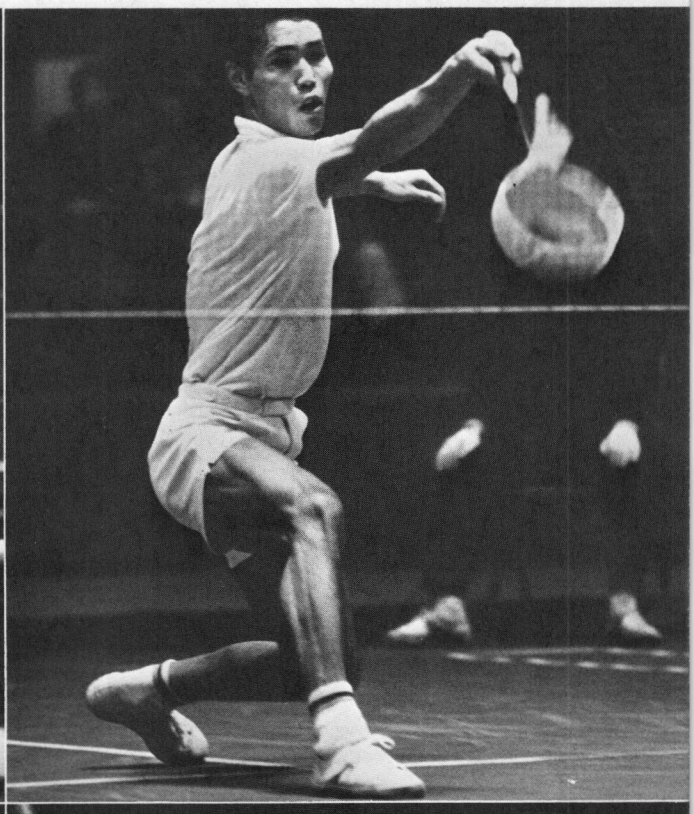
無念!! 肉ばなれに襲われうずくまる……ガッツもケガには勝てず

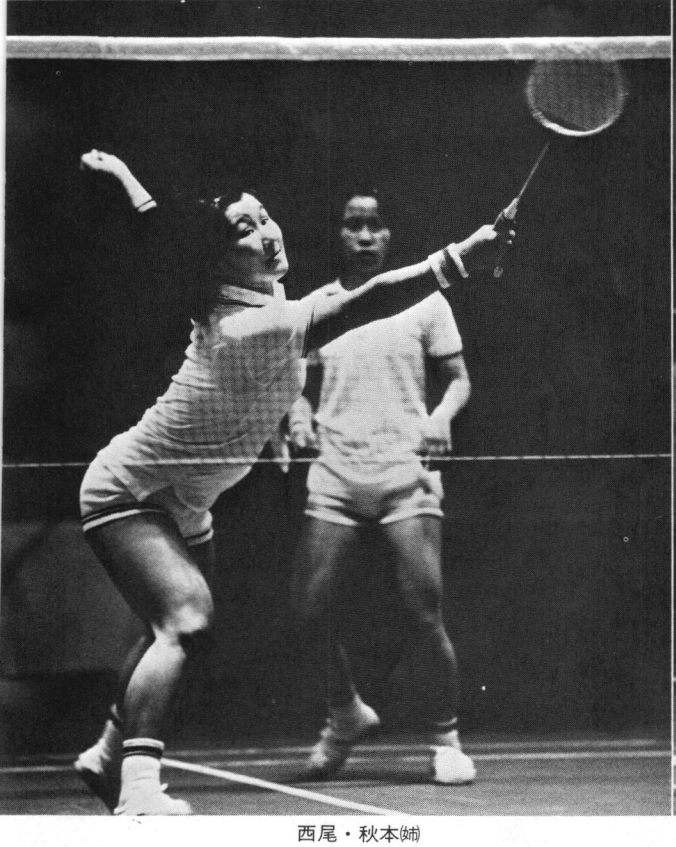
上位入賞をはたしたプレーヤーたち

本間順次

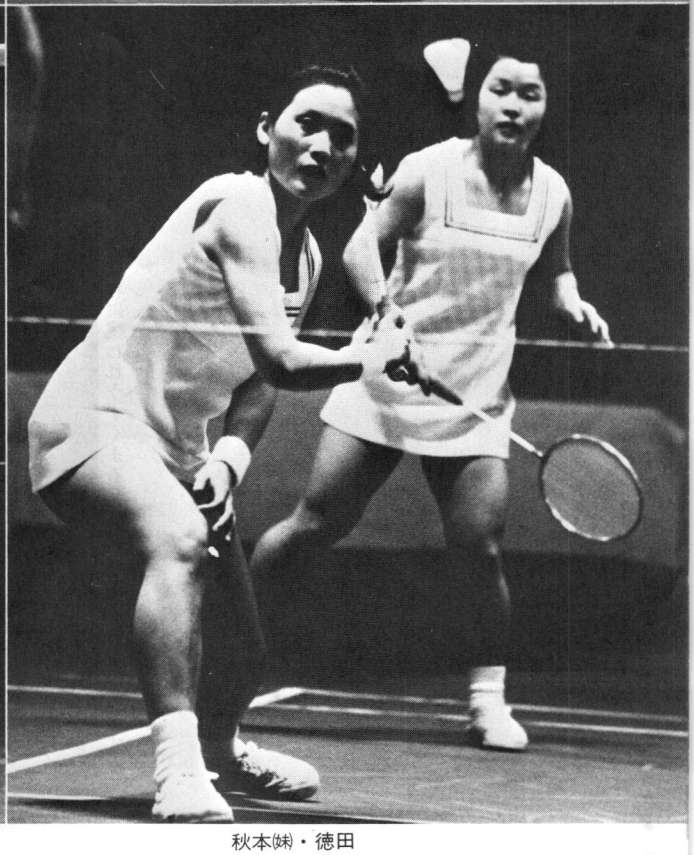


栂野尾昌一





西尾・秋本(姉)



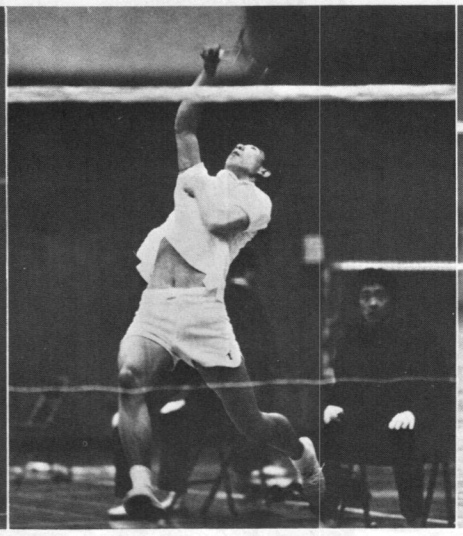
秋本(妹)・徳田

日本を支えるプレーヤーたち1＝上位入賞こそならなかったが全国から集まって技を競った人たち

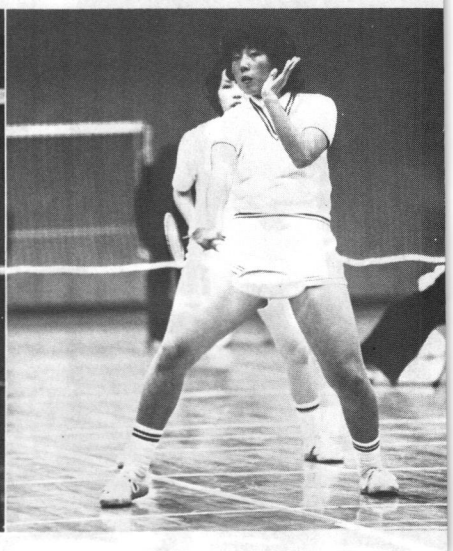
石田・吉田(東京)＝ベスト8



中山(福岡)



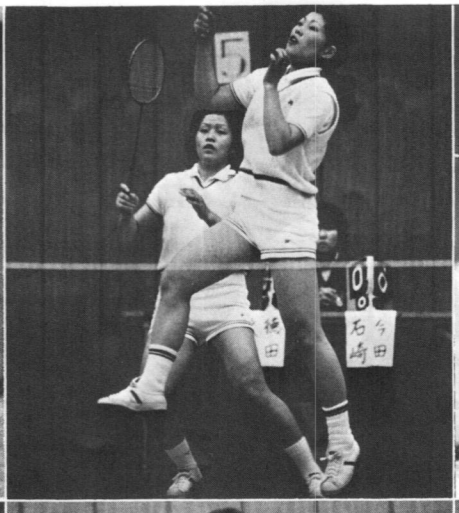
山森・陣内(東京)＝ベスト16



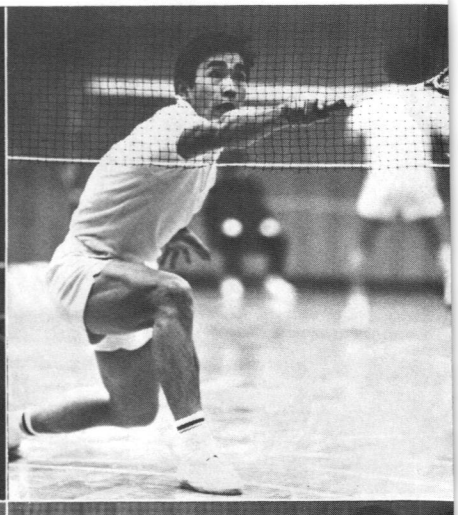
山本(東京)＝ベスト16



石崎・今田(東京)＝ベスト8

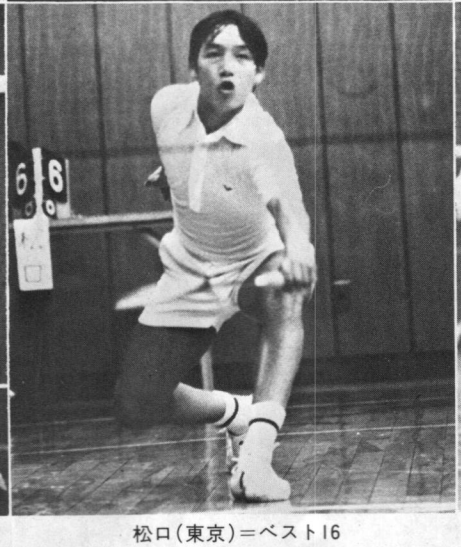


菅(長崎)

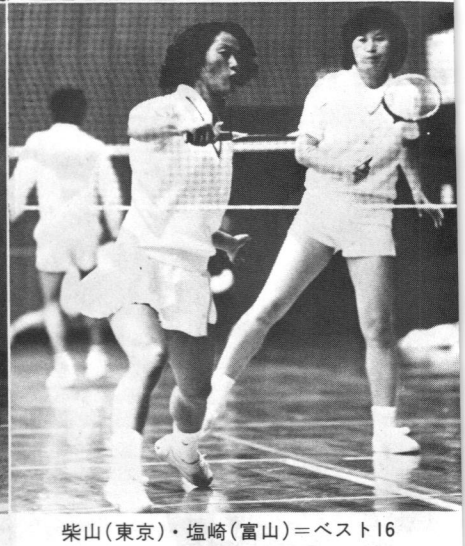




谷・井上(東京)＝ベスト8



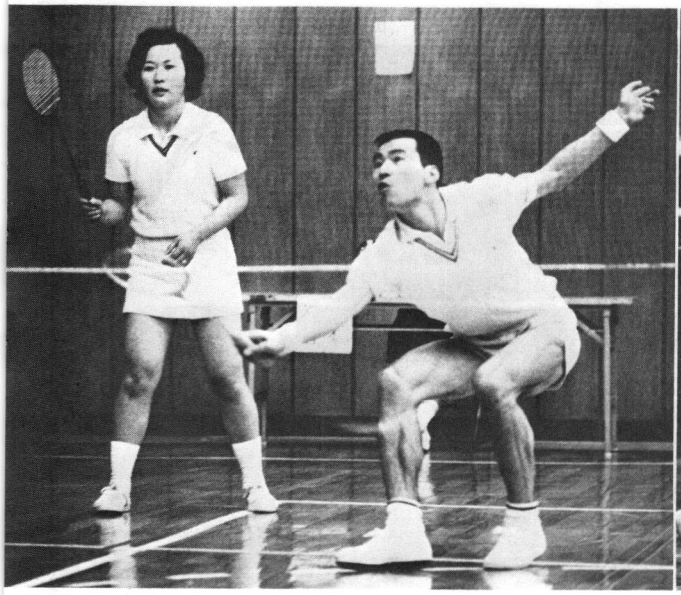
松口(東京)＝ベスト16



柴山(東京)・塩崎(富山)＝ベスト16

日本を支えるプレーヤーたち2

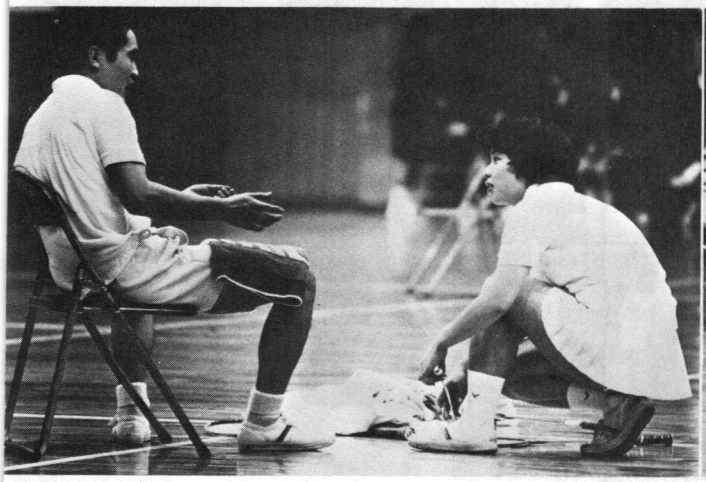
山本・多田(福井)



松田・千葉(東京)＝ベスト8



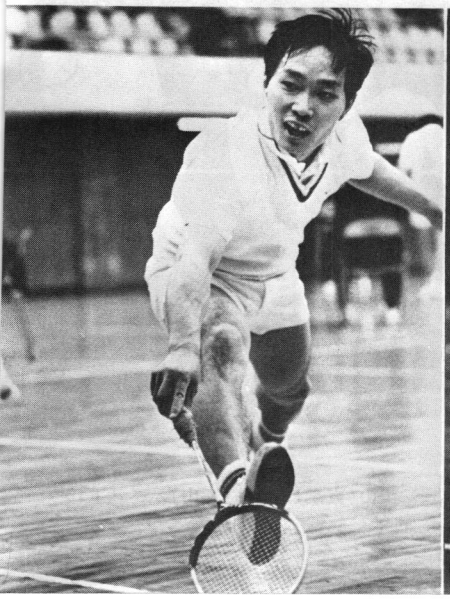
佐藤・岩崎(東京)＝ベスト8



神戸・中村(福井)



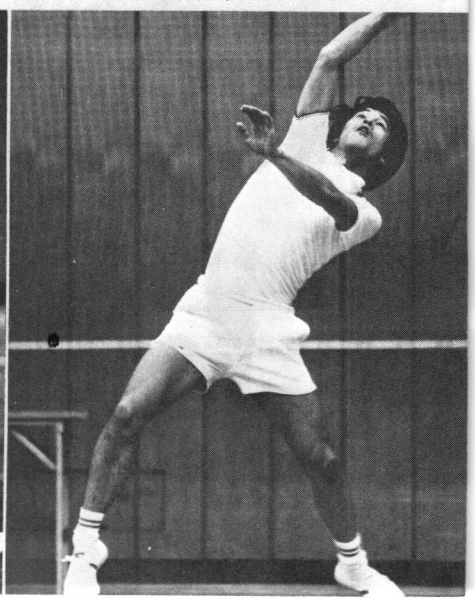
関(東京)＝ベスト16



佐伯(東京)＝ベスト16

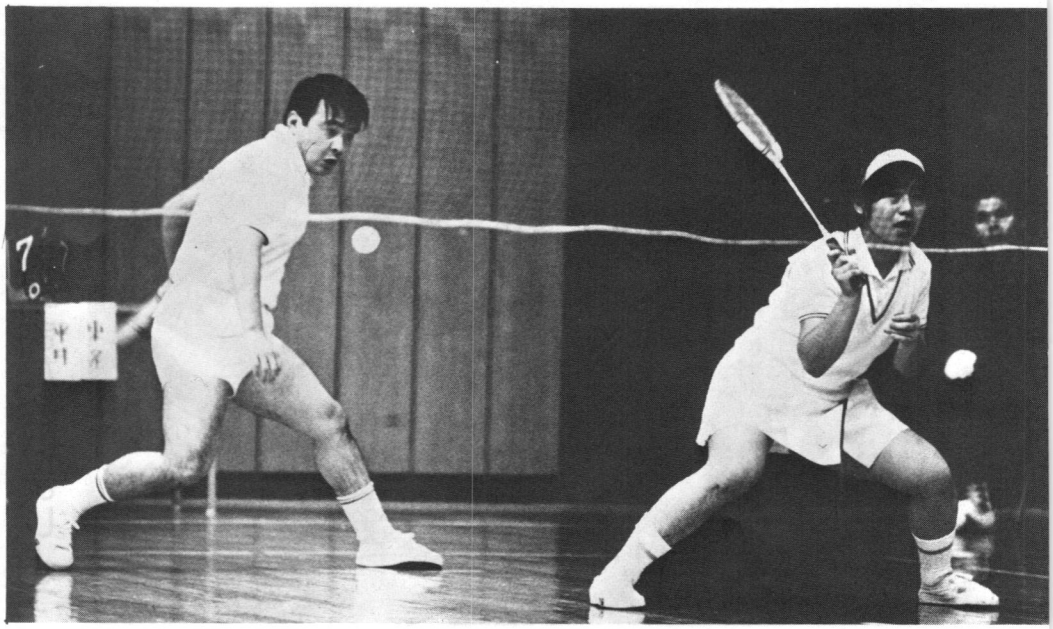


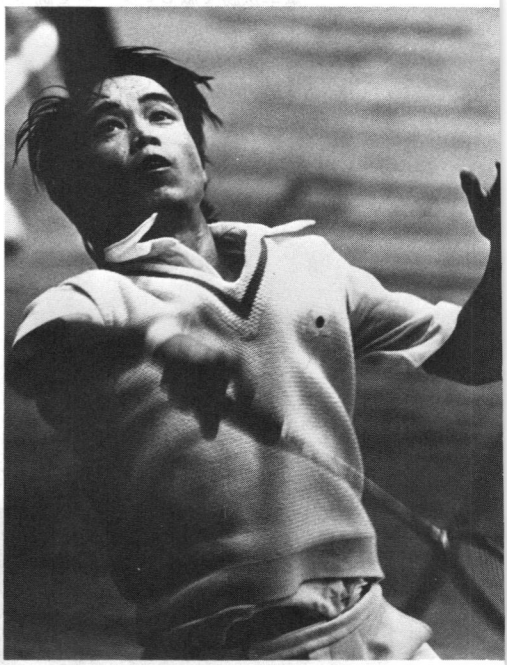
牧野(富山)＝ベスト16



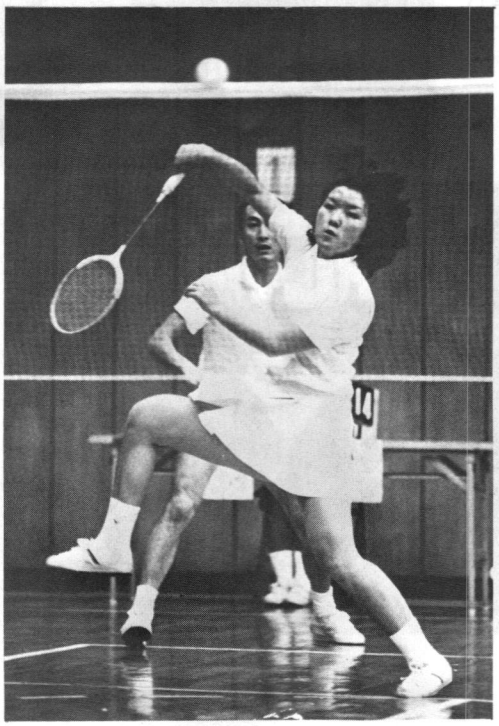
がんばるベテラン選手

かつての全日本学生シングルス，全日本総合混合複チャンピオンの東条㊧は平井とペアで出場





銭谷と長いゲームを演じた秋山

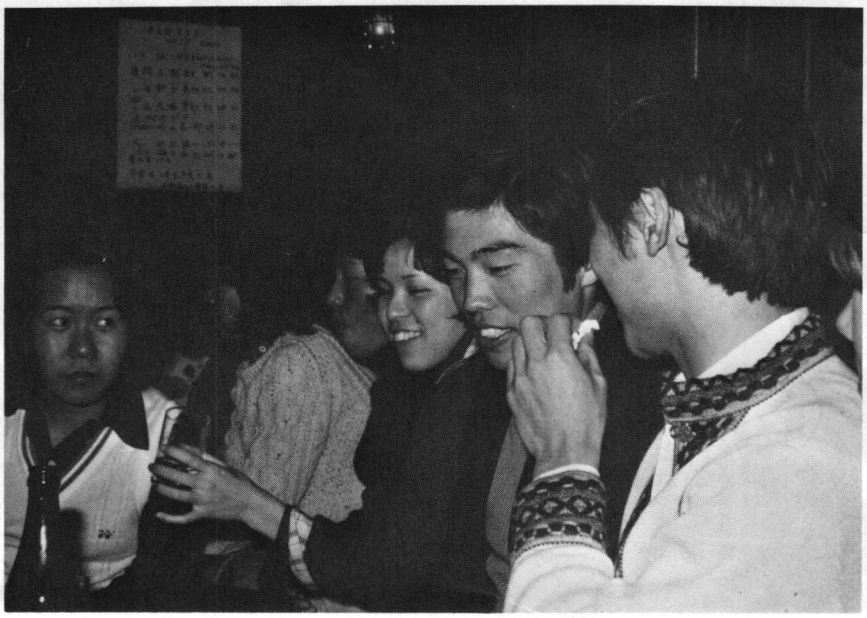


まだまだ若い山本は高橋とミックスで出場

闘い終えて……

♥♥友情のかたいきずな♥♥

来年また会いましょう



▲準決勝で激しいゲームを闘った本間㈲と銭谷両選手も仲良く話し合う



▶〝もう飲めないわあ〟と言いながらグラスを差し出す(?)西尾選手



◀〝女王の笑顔〟コートでは絶対にみることのできない湯木選手の笑い顔

（山本洋彦氏提供）

手応え確か。

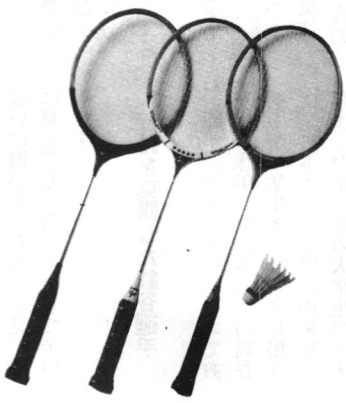
ゴーセンバドミントンラケット



白いシャトルコック目がけて力いっぱいふりおろす——インパクトの瞬間に感じる勝利の手応え！

ゴーセンのバドミントンラケットはまさにあなたの腕の延長。はじきの良さと軽やかさ——これがゴーセンバドミントンラケットの特長です。

その他、シャトルコック・ウエアも数多く用意しています。お求めは全国有名デパート・スポーツ店でどうぞ。



GOSEN
RACKET
FOR BADMINTON

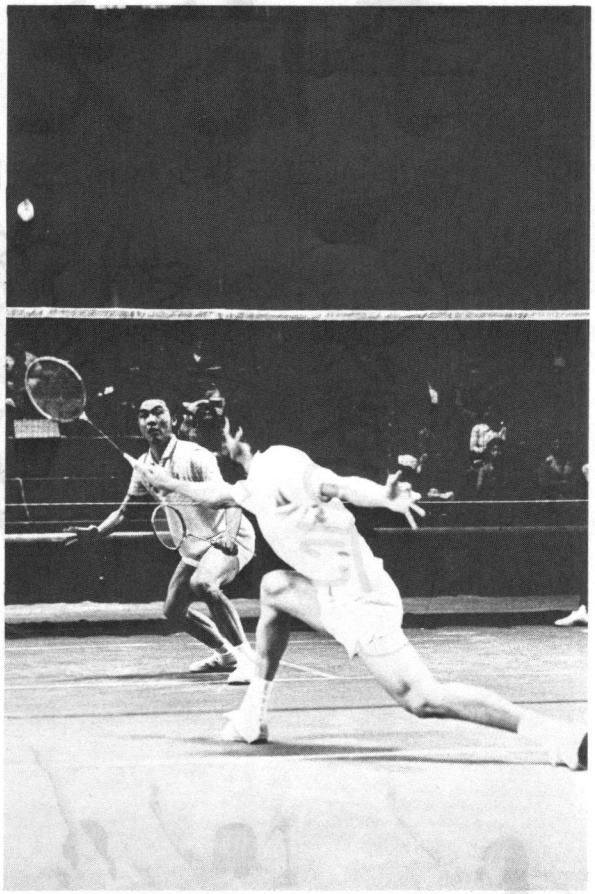
株式会社ゴーセン

本　社 ■大阪市東区農後町4　☎(06)942・5816(代)
東京支店 ■東京都台東区鳥越1・26・1 ☎(03)862・6576(代)

実戦教室 〈最終回〉

選手に続け！

小島一平



安定した力を発揮するようになった銭谷選手（後ろ向き）

試合の圧迫感に負けるな

いざ、試合が始まってから、勝たねばならない、責任をはたさねばならないと思っても、それではすでに遅い。

要は、一つの大会が終了し、その時点から、次の大会に焦点をしぼり、気持を集中させ、練習に汗を流さねばなりません。

そうしないと、目標を達成することなく、いつまでたっても、悪循環を繰り返すだけです。

ですから、心底、次の大会は、なんとしても勝たねばと思うことによって、練習でも熱が入り、負けた悔やしさをいつまでも忘れないようにすることです。

チーム戦では特に、責任感が強ければ強いほど、プレーヤーは、大成するであろうし、そういった気持であれば、おのずと、個人戦においても、良い結果が生まれることでしょう。

プレーヤー、誰れしも、苦しい練習を終え、試合にのぞめば、負けたいなどと思って、プレーする人はいません。

どのように強い人と対戦した場合でも、ひょっとしたらでも思うのではないでしょうか、それだから試合に出場するのです。

敗れてくやし涙にくれたことも

私の経験からいいますと、とにかく大会では、優勝以外なにものもなかったし、それだけの準備というか、激しい練習に励みました。

そして無残にも達成出来なかった時などは、自分がみじめで情けなく、悔やし涙を流しながら、畜生畜生!!　といいながら時間の経つのも忘れ、走り続けたことが、何度あったことか。

それだけに目的達成したことは、自己満足にともない、嬉し泣きしたこともあったし、一人になってつくづくよく勝ったと思ったこともありました。

人間やる気になったら出来るものです。バドミントンは、おとなしいスポーツの一つであるというが、それはうわべだけのことで、私は内に秘められた、激しい争いそのものであると思います。なぜならば、バドミントンはスポーツの中でも激しく厳しい種目だからです。

攻撃では、相手を叩きのめす、また守備では、相手を疲労こんぱいに追い込むなど、一見、楽に見えても、苦しくそして辛いのです。

苦難を克服した銭谷選手

昨年、学生ナンバーワンであり、一昨年の全日本二位の銭谷選手が、学生として、久し振りに全日本ナンバーワンの栄冠を得ましたが、彼の大学生のスタートから練習をともにしました。が、二年生まではセンスが良いということが頭に残っています。

三年生になると、頭角を表わしたが、一時、腰を痛め、半年あまり、プレーから遠ざかり、治療に専念した時は、どんなに思い切りバドミントンをやりたかったか、その心情は察するに余りありました。

それを克服し、今日に至ったことは、さすがと思わずにいら

●連載

体当たり

若者よ！ 銭谷

●*Ippei Kojima*

れません。

三年生の全日本では、私と決勝を争い、ストレートで私が勝ちましたが、その日をもって、彼は、全日本優勝という、一つの確固たる目的に向い始動したのでした。

後日談ですが決勝進出は、その時、私自身、考うもしなかったし、準々決勝で本間選手とファイナル・ゲーム、準決勝でも梅野尾選手とファイナル、それも三ゲーム目はセッティングで勝つという激戦の連続でした。

それゆえ、決勝で心身とも、疲労していたようでした。そして、昨年のヨーロッパ遠征では、各大会とも、惨敗を喫し、六月のアジア大会選考試合でもベスト8にとどまってしまった。

黙々と基本をくり返した

このころの彼は、非常に悔んでいたし、また意気消沈であったと思うが、その気持を、バドミントンに激しく、真正面からぶつかって、練習に打ち込み、今日の栄冠を勝ち得たわけなのです。

彼は、そのころ練習以外、なにものもないと考えたという。

スポーツとは、理論よりも、体でおぼえることの方が先決です。

一緒に練習していても、一番大事な基本練習を黙々と、下級生相手にしていた。

彼が優勝したこの大会で、私は準決勝で、十八年間のプレーヤー生活で、はじめて、肉離れというアクシデントで、キケンし、銭谷選手と決勝を争うことができなかったことは残念無念であったが、これは、試合に対しての集中力と気迫が十分でなかったことです。

ケガをした原因もそこにあるわけです。

ですから、皆さん、いくら、自信があっても、実力があろうとも、負けは負け、後で泣くよりも十分過ぎるほどの準備をし、注意してください。

努力は必ず報われる

話は戻りますが、銭谷選手は私との決勝を考えていたと言っていましたが、優勝は優勝、立派にそのチャンスをつかんだのです。自分の力で……。

いつも努力を積み重ねているプレーヤーは、チャンスが巡ってきた時につかむことができますが、そうでない人には、つかめないのです。

そして、たとえつかめたとしても、努力してつかんだものと、そうでないものの価値は大きなへだたりがあるものです。

十二回にわたって思いつくままに書いてまいりましたが、私の経験から得たものとして読んでいただき、一つの参考にしてくだされればこれ以上の喜びはありません。

同時に、一人でも多くの人がバドミントンに対して情熱を持ち続けていただければ幸いです。

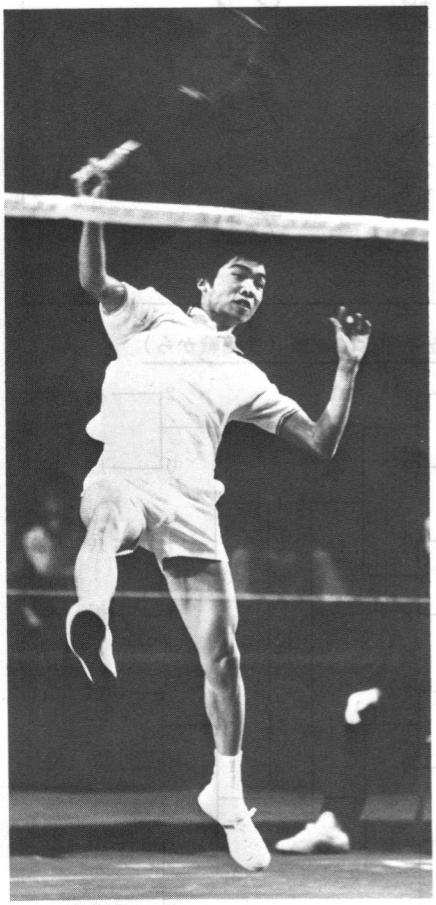
では、全国のバドミントン・プレーヤーの皆さんの健闘を期待してペンをおかせていただきます。

〔完〕

長い間ご愛読ありがとうございました。大好評のうちに「**体当たり実戦教室**」を終わります。小島選手は昨年末の全日本総合選手権大会の試合中、肉ばなれという不運に見舞われ、途中棄権し、現在は治療に専念しています。

幸い経過もよく、間もなく元気な姿を見せてくれることでしょう。また新しい企画を練っていますのでご期待ください。

＝編集部＝



豪快なスマッシュを放つ銭谷選手

〈特別寄稿〉

全国大会それは中学生の夢だった

◆横浜鶴が峰中学校教諭　地主　大造

イントロ

全国中学生スポーツ大会。十五日の柔道、バレーに加えて十六日からサッカー、剣道、卓球の他に水泳も始まって中学新が二つ、これらのニュースに続いて十七日からは陸上、バスケット、そしていよいよバドミントンと花ざかり。折しも続いた暑さも、四国の南方約五〇〇キロメートルに中心を持つ台風十四号の影響で気温も低め、朝から大雨波浪注意報の出た、一しきり強い雨の朝でした。

いよいよ開会式

「十七日に開会式が行なわれた。日本中の中学生代表がここ駒沢体育館（東京オリンピック記念公園の）に集合した。入場式の時、私は胸がドキドキ鳴りリッパナシだった。不安の固まりが、頭から押えつけているようだったのである。その時のことを考えると、こうして書いていても自然に胸がドキドキ鳴り打ってくる。みんなが整列し、東京代表の人が宣誓し、大会の幕が切って落されたのである……」。

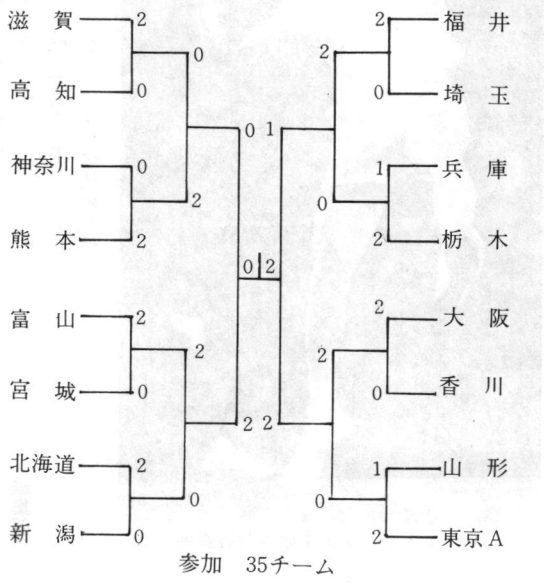
（福井県・光陽中二年・中山起久子さんから寄せられた便りから）

参加するまで

「……一日目、私たち福井はシードで試合は無かった。旅館に帰り、すべてを終えて床に入って、私はこの大会に出る迄のことをずっと思い返していた。

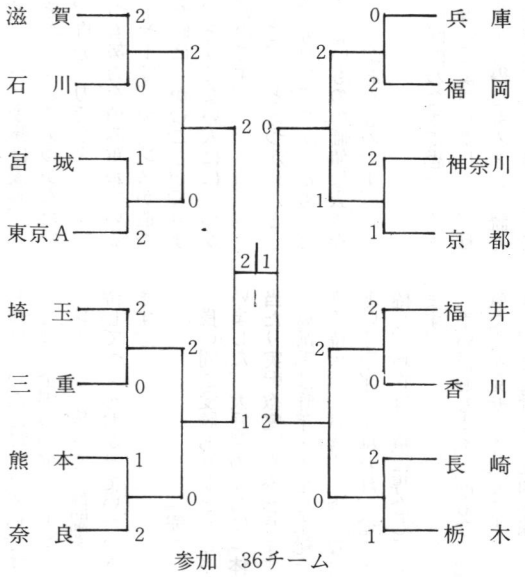
夏休みに入ったその日に、福井では県大会が北電の体育館で行なわれた。私はY先輩とダブルスを組み、個人戦で、一緒に全国大会に行ったKさんとSさんのダブルスに負けて二位、団体では、私たちの光陽中学校が優勝をとった。男子は団体が森田中、個人は私たちの学校のT先輩とN生輩がとったのである。」

女子団体戦々績（３回戦から）



参加　35チーム

男子団体戦々績（３回戦から）



参加　36チーム



熱戦のくり広げられる会場のようす

弱い心にムチ打って

「この日から私たちは練習に練習を重ねていった。毎日が必死であった。明道中で強化練習をし、光陽中でも、全国大会の為の強化練習を東京へ行く前の日まで、長い練習、辛い練習を重ねてきたのである。

この日の為に、どれだけ泣きたい事があっただろうか。何べんも何べんも同じ失敗を重ねるたびに、先生からの爆弾のような声が飛んでくる。疲れきって腕が重く、足が思うように動かなくなった時もあった。そして一番の悩みは、私が二年生だからだというように考えていた。二年生だから力が足りないんだと思っていたのである。

しかし、それも自分が弱い心であったことに気付き、もうそんなこと考えることもなくなっていた。「全国大会に出られるだけで満足じゃないか!!その中で自分の力を思いっきり出してこようじゃないか!!」と、自分に言い聞かせ、その日のためにがんばってきた。私だけでなく、Tさんも先輩たちもみんな同じ気持ちできたと思うのである。」

（中山起久子さん）もう一つ。

「夏の練習は、さんさんと輝く太陽の下で、真黒に日焼けして苦しい練習に耐えた。冬は、北風の吹く中で、約十キロ程長い道のりを、根性と努力で走り、休みたい時も休まず、ただ全国優勝を目指した。」（埼玉県代表）

こうした試練を越えて参加できた若人たちも、二日目までで男女合わせて六十三チームが姿を消してしまいました。

いよいよ準決勝

大会第三日目。夏の陽の強く射す朝でした。前日おそくまで激しい試合を繰りひろげた男子も、八面のコートに分れて元気良く練習を始めます。男女共残った福井の県名標識は白地に赤で鮮やかに目にしみます。十時、プラカードの先導で選手入場、中央四コートに分れて準決勝の開始です。第三コートの男子、福井――福岡、第七コートの女子、大阪――福井は、ダブルス、第一シングルス共2－0で福岡、福井の健斗空しく早々と勝負がつきましたが、満場（といっても観衆の数は淋しいものでしたが）を沸かせたのは男子の埼玉――滋賀でした。

熱のこもった拍手の応酬

ダブルスの第一ゲーム。小粒ながら良く動き拾う埼玉勢、着着と点を取ります。優勝を意識したのでしょうか、滋賀動きがやや固い。しかし徐々に地力を発揮しだしたのでしょう、逆転しリードです。良く球に追い着き、後へ大きくあげ相手のミスを誘うか、ネットで小さく返します。このあたりから両県の応援がにぎやかになります。滋賀は父母を中心に約二〇名が一斉にウワーッという拍手。琵琶湖の上に「滋賀」と染め抜いた旗が一層士気を高めます。これに対し埼玉は、「埼玉越谷中央中」の垂れ幕の上に男女生徒約五十人もいるでしょうか、三拍子の早いテンポで、チャチャチャ、チャチャチャ、チャチャチャ、チャ！と誰が音頭をとるわけでもなく自然と揃う手拍子です。拍手を聞いているだけでどちらが好プレイをしたかすぐわかります。激しい応援に支えられたのでしょうか、埼玉も追いあげます。12－12、ここでサーブ権は滋賀へ、第二サーブで1点、サービスオーバー。しかし埼玉、点が取れない。遂に力つきたか滋賀2点連取して第一ゲームを手中に収めます。第二ゲームも滋賀勢いに乗り、埼玉のミスも続き2－0となりました。

滋賀、王手をかける

次はシングルス。先ず滋賀好調の滑り出し。然し埼玉すぐ逆転して5－3、滋賀すぐ追い着き11－5と引き離す、埼玉も負けてはいません。3点連取して11－8まで追いあげますが滋賀のうまい攻めに合い15－8。埼玉にとってはあと一ゲーム落せば決勝への夢は断たれておしまいです。ここは何としてもガンバッテ欲しいところ。

第二ゲームの開始、双方仲々点が取れない。滋賀やっと3点リード、ここで埼玉反撃、相手をコート一杯に走らせ、ドロップをネットにひっかけさせたり、レシーブをアウトにさせたりして6－3と逆転です。滋賀このあたりから中学生らしくない態度が気になります。サーブを受けるとき靴のひもをゆわえ直したり、汗をていねい過ぎる程ゆっくりふきコート内を動きまわったり……。今度は埼玉がネットやアウトで又追いつかれ7－7、このあとは一進一退、滋賀がスマッシュをクロスに決めて12－13迄追い上げます。だが埼玉も仲々強い。滋賀のアウトで14、そして、バックからのスマッシュをきれいに決めて貴重な第二ゲームを取りました。どんなにじらされてもゆっくり落ち着いた立派な態度、腰を低くした鮮やかなフットワーク、非常に良いプレイスメント、中学生らしからぬものをこの埼玉の選手は持っていました。

埼玉、一勝をあげる

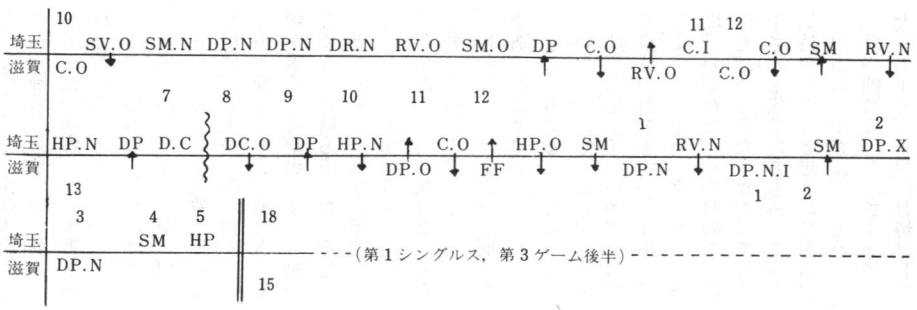
休憩の後のファイナル。1－6とリードされた埼玉が殆んど一気に10－6と逆転、その後を私の記録から辿ってみましょう。数字は得点。略記号は得点やサービスオーバーにつながる最後の決め玉です。

一方的に点が続けて取られたり、ミスがあるのはやはり、中学生のゲームなのでしょう。しかし、それを誘ったラリーなり追い込みには見ごたえあるものがありましたし、マッチポイントを握ったSM、そして相手のDPをきれいなHPで返した力は素晴らしいものでした。

準決勝から決勝へ

単一校でチーム編成となった埼玉には、第二シングルスは厳しい戦になりました。第一ゲーム、5－2とリードはしたものの、力の差はいかんとも仕難く、

《表中略記号》
C：クリアー
CC：ドリブンクリアー
DP：ドロップ
DR：ドライブ
SM：スマッシュ
HP：ヘアピン
SV：サーブ
RV：レシーブ
O：アウト
N：ネット
I：インネットイン
FF：フットフォルト
X：クロス





決勝を前に最後の調整をする男女4チーム



優勝決定の瞬間，とび上がって喜ぶ滋賀県チーム

7－15でとられ、第二ゲームも大差で敗れ、決勝戦への夢は断たれてしまったのです。

昼食をとる間も惜しむように決勝戦は始められました。コートすぐ脇の本部席には大きな大きなカップが置かれています。

女子は福井をダブルス、シングルス共2－0で破った大阪と、大接戦の末富山を下した熊本の対戦、男子は福岡に短時間で勝負をつけた福井と、埼玉と熱戦の末勝ち残った滋賀の組合せです。

またもや男子好ゲーム

女子の大阪は、ダブルスを15－10、15－2。シングルスも淡淡と点をとります。力が大分違うようです。それとも準決の疲れが残っているのでしょうか。

男子の方が又おもしろい。ダブルスは、高校生並みの体格の選手を揃えた福井が良く打ち、良く拾います。滋賀も負けてはいません。しかし、大きな身体で身構えられてはどうも勝手が悪いようです。滋賀の健斗空しく2－0で福井となりました。

第一回全国中学生大会では準優勝、第二回は三位入賞、今年こそはという気力が溢れている福井です。

ダブルスが終るやシングルスの二人がすぐコートに入り練習を始めます。主審が声をかけます。滋賀はまだ出てこない、宮本武蔵の戦法か、対埼玉戦の疲れの所為か。相変らずのらりくらりした態度は変りません。所がゲームが始まると、サービスエース、クロスに決るSM、クリヤーと見せかけて打つDP、そしてプッシュ、よく走りよく相手をまわします。余りミスも出ません。15－5。第二ゲームもクロスのヘアピン、スマッシュで連取です。

応援席のマナーも

いよいよ第二シングルス。この頃から私のまわりで応援していた福井の女子のお行儀が悪くなります。熱心に拍手するでも無し、私語が多い。立ったり座ったり落ちつきません。コートにいる時だけが大切だというのではありません。唯、握手したり、相手のネットしたシャトルを拾うのが良いマナーでは無いでしょう。相手に全力でぶつかる。これもとっても大事なことでしょうし、応援席で見学者としても気持よくみる。これも礼儀の一つではないでしょうか。

第一ゲーム、滋賀のミス多く15－11で福井、第二ゲームは滋賀のスマッシュ、クリアー良く決り、ゲームポイントはショートサービスエースで15－4で滋賀、第三ゲーム、双方共に気持の良い試合運び、ミスの少ない滋賀が着々と加点、HP、SMで勝利をつかみます。飛びあがるベンチ、かけ寄る監督。何事も無かったように握手して分れる二人。決勝戦は終ったのでした。

ここで全国大会をめぐる動きを追ってみよう。

存続か廃止か

「50年度からのジュニア選手権、中体連が共催拒否、過重奉仕、教育に障害、開催不能に陥る恐れも」という大きな活字の見出しで八段にわたる74・1・24付朝日新聞の記事を読んだ方も多いことだろう。

中学生の対外競技については戦後文部省によって「隣接県にまたがる小範囲」のもの、と決められていたが、体協を中心とするスポーツ団体は「青少年からスポーツ活動への自由な参加の機会を奪うもの」として枠の撤廃を訴え続けて来た。この為

四十四年七月、文部省は次官通達により、学校教育活動外（註、傍点筆者）の運動競技に限って規制の枠を取り外し、ジュニア選手権開催への道を開いた。こういう訳でバドミントン競技も昭和四十六年、第一回が東京、続いて、名古屋、宇都宮、そして四十九年の東京大会となったのである。全体としては十四種目、全国の参加校は千百五十校というのもこの発展の結果と言えるだろう。

中体連が中止を働らきかけに

この全国大会が「教育の場に支障をきたしている」とし、全国中体連理事会が文部省に中止を働きかけることを四十七都道府県代表の満場一致で決めたのは全国大会が始まってから僅か三年後、四十八年の十月のことだった。中体連の主張を要約すると、次の三点にしぼられそうだ。（49・10・4　朝日）

一、一部選手中心の指導と勝利中心主義の出現とそれに伴なう多くの生徒の体育スポーツの実践活動の阻害

二、過熱、過度な専門的スポーツによる心身に及ぼす悪影響の危惧

三、参加に必要な経費負担や災害補償の問題

（田中中体連事務局長）

現場の声は……

これらの報道に対し、ベスト4に残った監督の先生たちに意見を求めてみた。

「全国大会は底辺を広げる為にも、たとえ費用が個人負担にしてもやるべきだと思います。今は中学生からほんとうに練習しなくては、高校からではおそいと思います。ですから私たちが練習をさせるからには、全国大会があり、目的がなくては練習をさせる気にはなれません。また中学生から練習しないと世界的選手は出ないと思います。」（熊本県チーム監督Nさん、傍点筆者）という積極的意見から、

「実際に参加していない、余り熱のない人たちの、或いは知育偏重の上役の考えることで、年に一度位の全国大会が教育に障害を与えるなんてことになるはずがないと思う。技を競い合い多くの人たちと心を通じあうことの方がはるかに有意義だと思う。何事もやらないよりはやる方が、その分だけ仕事が過重になるのはあたり前のことで、楽をすることを考えたら何もできないだろう。」（福井県・Oさん）という批判も出る。

無理は時間をかけて

しかし、一方、「……結論的には大きなはげみになっていることは確かで、毎年競争力は向上していて、愛好者は続けて開催して欲しいと思っています。しかし、かなりの無理をしていることも確かです。問題解決に時間はかかると思いますが、無理を無くしていくことが大切ではないかと思います。」（滋賀県Fさん）

「子供の運動欲求はもともとあるもので、これを勤務や体制のために犠牲にしてはいけないと思う。過重奉仕と言わずにやる人、やれる人はいるはずです。それらの人が単なる奉仕とならぬように体制を考えるべきだ。協会側も、もっと本当の底辺強化をすべきだ、今回も前回も個人として考えていくと、経費的なものが監督や選手に響いてくる。もっと大会経費を何とかすべきである。」（埼玉県・Kさん）という切実な意見。

そして最後に、「子供たちに目標を持たせるためにも、是非全国大会の灯を消さないで欲しい。」（富山県・Mさん）という願いもつけ加えておこう。

みんなでするスポーツへ

「青少年のスポーツ活動をどのように保障していくのか」―のテーマで日体協・スポーツ少年団本部は中体連など関係団体との話合いを始めることになった。」と49・11・8　朝日は報じた。しかし、私たち一市民にはスポーツ少年団という名前も耳新しい、いや実際に見たこともないし、雲の上のような話に聞こえる。文部省、或いは県の体協あたりではスポーツ指導員の講習に力を入れだしたようだが何か自分たちだけで楽しんでいるような点が見られない訳でもない。場所がないからだろうか。

（表1）　県段階の中学生バドミントンの状況

（全国大会上位4県の監督にアンケートをお願いし回収できたものの集約）

県名	普及度	形態	大会等	使用球
滋賀	全県的にある程度普及親しまれるスポーツ	中学校の部活動（教育課程外）が主	県中体連主催の団体戦 2D，3S	陸鳥球
富山	同上	同上	同上　3D，2S	合成球
熊本	同上	※（社会体育，3，4の小学校体育館で	県協会主催の団体戦，個人戦	水鳥球
福井	特定の地域で行なわれている	中学校の部活動が主	県中体連，団　3D，2S 同，個人戦　D，S	陸鳥球
埼玉	都市部を中心にある程度，県内で20校前後	同上	県中体連（主管）県協会共催で年3回，団2D，3S，個	陸鳥球

（表2）　全国大会参加状況（対象は表1と同じ）

県名	チーム構成	選手選考 時期	選手選考 方法	選考後大会迄の練習	選手費用
滋賀	混成	5～6月	大津市で個人戦S→ベスト8，他都市より選抜，強化練習後協議検討	日，祭日，夏休み3，4日を2回	協会，学校PTA 大津市
富山	単一校	7月初	昨年までは選手選考大会，本年から県選手権大会を兼ねた	毎日の練習の他自校での合宿（4泊5日）	学校負担
熊本	混成	6月	個人戦で上位6名	日曜日合同練習	個人負担
福井	混成	6月中旬	県中体連春の大会個人戦上位入賞者より	1週間合同練習	協会と個人
埼玉	単一校	5/25，26	学徒総合体育大会を予選とし，S，Dベスト2，もしくはそれに準ずる者から	校内練習	市と学校PTA

金がないからだろうか。全国到る所にある○○カントリークラブ、GNP第一位はどこの国の話だろうか。見るスポーツからするスポーツへ、みんなで楽しむスポーツへ。スポーツを愛する者の小さな力をいくつもいくつも合せることが一番の近道なのだろうか。……

戦いすんで陽がくれて

予定より四〇分も遅れて閉会式が始まった。大きな銀色の優勝カップが滋賀と大阪の代表の手に渡る。「毎年開くことにより競技人口は増加し、技術の向上も目を見はらせるものがあった。」と小口東京都協会々長のあいさつ。「先生方の御指導と皆さん方の努力が結集されて本大会は行なわれた。これからの人生、立派な身心、そして叡智をみがきあげて……」と全国中体連の近藤先生の言葉を後に、殆んど観客の去った体育館を、静かに選手たちは去っていく。数々の思い出を胸に残して。

弱気を出すな

「全国大会優勝」これは僕にとって一生の思い出となるだろう。

きびしいトレーニング、高校生相手の試合など苦しい練習に勝って得たこの栄冠は、二度と味あうことはできないだろう。正直言って、準決勝（対埼玉戦）の時は半分だめだと思っていた。しかし、苦しい練習に耐えてきた僕らには、負ける気がしなかった。決勝戦（対福井戦）にも同じことが言えた。もしあの時弱気になっていたら今頃は……。

僕は、この大会で一つ学んだことがある。それは、「人間何事にも弱気を出してはいけない」ということだ。弱気になるということは、心の中に心配ごとができてしまいなにをやっても失敗してしまうからだ。

中学校生活での最後の試合が、こんな良い試合になってとてもうれしく思っている。これからは、勉強・勉強で追いまわされるが、今のこの気持は忘れない。忘れようとしても忘れないだろう。きっと、これは僕の人生の一コマとして永久に残ることだろう。「うれしい」今はこの言葉で胸が一ぱいだ。（滋賀県・西山博司君）

羽根と勝負するんだ

「眠たい朝、友だちと遊びたい土曜日の午後、家でゆっくりしていたい日曜日、そんな自分の時間をさいてまでもやっている私たちのバドミントン部。やるからには是非全国大会優勝の夢を実現したい。そして、その練習の中で自分という人間を少しでも立派な人間にしたい。そう思って続けてきた部活動である。

先生はいつも『相手を意識するな。羽根と勝負するんだ。』という。相手にとらわれず羽根に勝とうとすることは簡単なことではない。でも、みんな羽根に勝つため力いっぱいコートを駆ける。難しい羽根を必死でとらえた時の何とも言えない気持ち、全力で打ったスマッシュが決った時の嬉しさは最高である。

練習中の心構えの大切さ

約二年半かけて積みあげてきた私たちの力は、全国第三位という結果であった。先の北三大会までは連戦連勝、負けることの無かった私たちは最後の試合、そして、私たちの実力を本当に試すことのできる試合において敗れてしまった。そして自分たちの力を知ることができたのである。

敗れた事は残念であったが、私たちはここで勝つこと以上に大切なことを学ぶことができた。熊本県との準決勝の試合、私はジリジリと離されていくポイントに、今まで経験したことのない、やり場のない不安な気持ちに追い込まれた。走っても走っても追いつけない羽根。私は負けてしまうんだ。とポイントを取られるたびにあせった。しまいには、負けてもいいとまで思いかけた。しかし、私はどうしても試合を捨てることはできなかった。それは、これまで絶対に勝つんだと思って練習してきたからだと思う。この試合から、練習中の心構えの大切さを良く知らされた。

これからも、いろんなことに取り組まなくてはならないだろうが、この部活動で得たことを想い出して、常にしっかりした心構えで対していきたいと思う。」（富山県女子チーム主将・氷見市立北部中学校三年・清水雅子さん）

（附記　多忙の中アンケート、作文を寄せて下さった監督、選手の皆さん有難うございました。今後の精進、努力を祈って居ります。74・12・5）



バドミントンのすべて
——ABC教室

新連載〈第一回〉

楽しいけれど、手ごわいスポーツ

今月から一年間の予定で初心者にもバドミントンを理解できるように、また、経験者にはもう一度この競技を見直すことができるように、「**バドミントンのすべて——ABC教室**」を連載します。

ラケットを一度も握ったことのない人が、バドミントンと取り組むときの手軽な手引として、また、指導する立場にある人々にはコーチハンドブックとして役立つようにとの願いをこめてスタートします。

さらに、現在プレーヤーとして活躍している人たちには、バドミントンの見直しとして読んでいただければ幸いです。

とつつきやすいけど、案外手ごわいスポーツ

バドミントンというスポーツは、はたで見ていると簡単で楽な競技のように思います。

お正月には、日本の伝統的な羽根つきがあまり見られなくなり、代わりにバドミントンを楽しむ人が多くなってきました。そのためか、バドミントンというと、「ああ、西洋の羽根つきか」と思ってしまうのです。

しかし、このスポーツを遊びとしてではなく、競技として取り組もうとするとなかなか手ごわい相手なのです。

まずラケットを手にしてみると、握りは細いし軽いので、小学生にも自由に振り回すことができます。羽根だって——正式にはシャトルコックと呼びます——軽く打つだけでネットを飛び越していってくれます。どうやら、やさしそうだし、体のためにも適当な運動のようだからバドミントンをやってみるか…といって、このスポーツを始めた人は非常に多いのです。

ところが、この考えが間違っていたことは、二、三日練習して、自分より上手な人とシャトルを打ち合ってみればすぐにはっきりします。

三日ほどたつと、あなたは、バドミントンというのはほかのスポーツに比べて、なんと細かいデリケートなことをしなければならないのだろうと思うでしょう。そして、ラケットを使うからといっても、テニスや卓球と違って、ずっとむずかしいラケットさばきが必要だということにも気がつくでしょう。

コートが広すぎる！いや、狭すぎる！

コートの広さは、テニスに比べたらずっと狭いので、テニスより動かなくてすむだろう、と考えてしまうことが多いのです。ところが、いざコートにはいって相手の打ってくるシャトルを追いかけてみると、狭いどころか、広すぎてとても一人ではカバーしきれないでしょう。

そして、あなたは、〝コートが広すぎる〟と思うでしょう。

しかし、シャトルを追いかけて相手のコートに正確に返そうとすると、ネットに引っかけたり、横へ一メートルも出してしまったり……。

ここで、あなたは考えます、〝コートが狭すぎる〟と。

シャトルが床に落ちる前に、ラケットを差し出し、いや、その前に走ってシャトルの所まで行き、正確にヒットするということは、こんなにむずかしいことだったのです。

ところが人生というものがすべてそうであるように、むずかしいことほどやってやりたくなるし、興味が盛り上がり、挑戦したくなるのです。

だから、バドミントンを実際にやってみて、大して広くもないコートを走り回って疲れはて、あの小さな白いシャトルを自分の思いどおりにできなかったときに、初めてこのスポーツのおもしろさ、楽しさがわかるのです。あんなシャトルくらい自由に飛ばしてやる！と思ったら、あなたは、すでにチャンピオンになる資格は十分にあるのです。

日本人には天性の素質がある

チャンピオンといえば、現在

世界でどういった国の選手が強いか、少し紹介しましょう。

国別では、インドネシアが、男子のタイトルをもっています。女子は、日本が一九六六年以来ずっとチャンピオン国です。

男子はトマス杯、女子はユーバー杯というカップを争奪する世界選手権が三年ごとに開かれています。女子は今年五月末から六月上旬にかけて、インドネシアのジャカルタで防衛戦があり、各国の挑戦を受けることになっています。

個人のチャンピオンは次のとおりです。

ルディ・ハルトノ（インドネシア）＝男子シングルス、**チュンチュン・ワジュディ組**（インドネシア）＝男子ダブルス、**湯木博恵**（日本）＝女子シングルス、**M・ベック・G・ギルクス組**（イギリス）＝女子ダブルス、**J・エディ・P・ウェトナール組**（イギリス）＝混合ダブルス

世界選手権の個人戦というのは行なわれていませんが、毎年三月末にイギリス、ロンドン郊外のウェンブレー市にあるエンパイアプール・アンド・スポーツアリーナというところで開かれている全英選手権大会（*All-England Badminton Championships*）に、各国からプレーヤーが参集し、競い合っています。そしてこの大会を事実上の世界選手権とみなしているのです。

日本選手はこの大会で毎年大活躍しており、次のようなすばらしい結果を残しています。

- ●一九六六年・**秋山真男**＝男子シングルス準優勝
- ●一九六七年・**高木紀子**（現中山夫人）＝女子シングルス準優勝
- ●一九六九年・**湯木博恵**＝女子シングルス優勝、**高木紀子**＝同準優勝
- ●一九七〇年・**竹中悦子**＝女子シングルス優勝
- ●一九七一年・**高木紀子・湯木博恵組**＝女子ダブルス優勝
- ●一九七二年・**相沢マチ子・竹中悦子組**＝女子ダブルス優勝
- ●一九七三年・**相沢マチ子・竹中悦子組**＝女子ダブルス優勝、**湯木博恵**＝女子シングルス三位
- ●一九七四年・**湯木博恵**＝女子シングルス優勝、**池田信孝・栂野尾昌一組**＝男子ダブルス三位

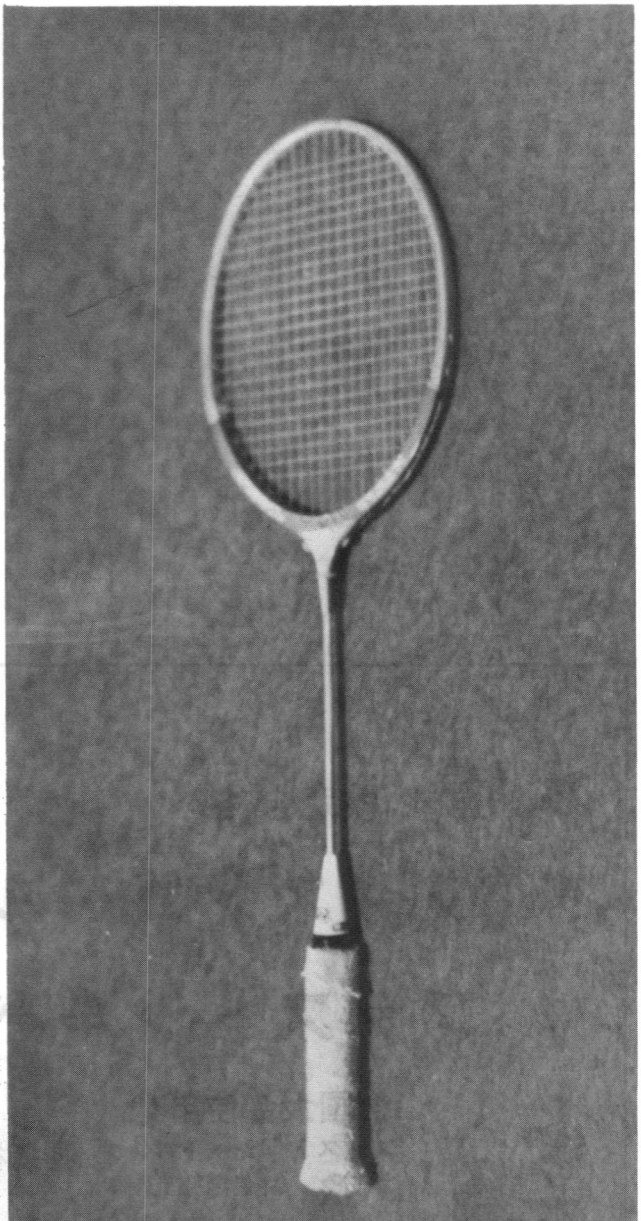
このように、一九六六年以来毎年のように上位に進出しています。

ここで忘れてならないのは、お隣り中国です。国際バドミントン連盟（IBF）に加盟を許されていないために、公式戦には出場していませんが、日本を訪れたこともあり、その実力は男女とも世界一をねらえるもので、事実、昨年のアジア大会には選手を派遣し、男女団体戦、男子シングルス、女子シングルス、女子ダブルスの五種目の金メダルを獲得しています。

有力な選手は、男子では、侯加昌、湯仙虎、方凱祥、女子では、陳玉娘、梁秋霞、林有雅、丘玉芳といった人々です。さらに若い選手たちも着実に力をつけてきており、今後の世界の動きのカギを握っていることは間違いのないことのようです。

このように、バドミントン競技においては、アジアの各国が安定した力を発揮しています。これは、瞬間的なスピード、器用なラケットさばき、慎重なかけひきといったものが、アジアの人々の性格にピッタリなのかも知れません。

もちろん、日本人にもピッタリなのです。体格的に外国の人さちに負けても、すばやい動き



ラケットは軽いし，振り回すのも簡単だけど……

と、強じんなスタミナ、そして慎重なヨミとカンでそのカベを破ることができるのです。

時速ゼロから二五〇キロまで

バドミントンのシャトルコックは、コルクに水鳥の羽根（おもにガチョウ、練習のものにはニワトリの羽根を用いることもある）を十六枚前後突き刺して、糸でかがったものですから、非常に軽いものです。

そのため、シャトルは、ラケットで強く打っても、しばらくすると急激に速度が落ち、さらにゼロになって、床に対して垂直に落下してきます。

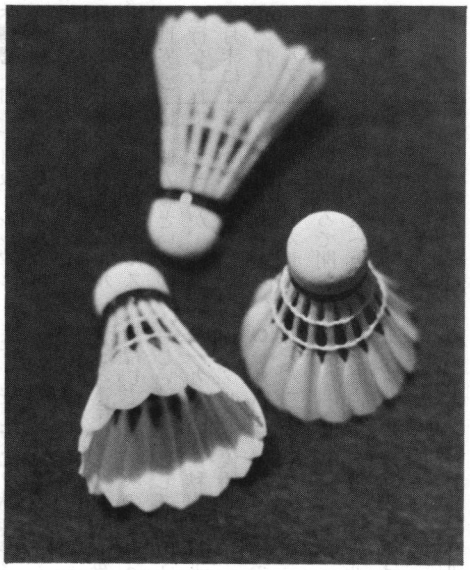
ただし、このことは、バドミントンはゆったりしたシャトルのやり取りのスポーツだなどということではありません。

男子選手によって叩きこまれたシャトルは時速二五〇キロを越えるようなこともあるのです。

このように、バドミントンはどんな球技に比べても信じられないような、スピードの変化の激しいスポーツなのです。

バドミントンのラケットが軽いのも、こういった競技の性格から、当然生まれたもので、すばやい手首の返し、腕の上げ下げとも関連があるのです。

これほど変化の激しいシャトルに振り回されながらも、バドミントン・プレーヤーは、試合において二〇から三〇ラリーも続けるのです。（一ラリーというのはシャトルが一回行って返ってくること）



この白い羽根が時速250㎞以上とは……

このことからも、バドミントンは、どれほどの体力を必要とするか想像できるでしょう。体力と同時に、辛抱強さと、強い精神力も欠かせません。

小さな楽しみと大きな挑戦

羽根つき程度のものと思って始めたバドミントンも、少しずつ上達していくうちに、楽しみが大きくなっていきます。

そして、先輩たちとネットをはさんでシャトルを打ち合うと相手がいろいろな種類のボールを返してくるのに、自分はほんの二、三種類しか打てないのにイライラするでしょう。

でも、それでいいのです。そのくやしさがあるからこそ、挑戦が生まれるのです。

自分の思っているコースへ、自分の考えた種類のボールで、自由に打ち込めたら、と思うのが当然なのです。

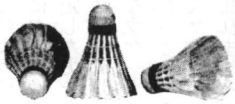
さあ、ボヤボヤしてはいられません。せっかくやりかけたスポーツです。途中で投げ出したりせずに、勇気をもって挑戦しよう!!

（来月は、用具、ウェアの選び方などについてです）

水鳥 検定合格球

ファストゴールド

ファストシルバー





全国大会使用球

ファスト印シャトルコック 製造発売元

有限会社 ジャワ商会

山形市六日町7の28

電話 0236(33)0333(代表)

カアルトン ニュートーナメント は水鳥？

ナイロンを感じさせないナイロン。

新開発された、カアルトン〝ニュートーナメント〟シャトルは、ナイロンと云うよりも英国製高級水鳥シャトルに最も類似した性能を備えた、新しいシャトルです。



ニュートーナメントの特徴

●打球音が変った●ラケットから離れる感じが変った●ネットでのターンノーバ（回転）が変った●スピン●シャトルに対する視覚度（よく見える）がよくなった●飛翔のときの一貫した安定性が増加された。

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5-6-4 TEL. 833-3661（代）

国民体育大会の規定が変わります

今年の三重国体から一般と教員で成年男子に

第30回国民体育大会秋季大会は、三重県下を中心に開催されるが、バドミントン競技は次のとおり行なわれる。

●**会場**＝三重県松阪市松阪高校体育館（松阪市垣鼻町）

●**期日**＝10月27日～30日

●**種別**は従来、一般男女、教員男子、高校男女の五種目だったが、今大会からは、成年男子、成年女子、少年男子、少年女子となり、成年男子の中に、一般の部と教員の部を設けている。

●**競技上の規定と方法**は、従来同様、1複2単による都道府県対抗トーナメント方式とし、3位決定戦を行なう。

●**地区予選区分と選出チーム数**は**表1**のとおりであるが、成年男子のうち一般男子の部は各都道府県から一チームずつ参加できる。

●**おもな参加資格**は次のとおりである。

(1)日本国に国籍を有するもの。

(2)選手、役員は、㈶日本体育協会加盟団体の「アマチュア規定」に定められたアマチュアであること。

(3)第29回大会（地区および都道府県予選会を含む）に選手ならびに監督の資格で参加したものは、本大会に異なる都道府県から参加することはできない。ただし新卒者は除く。

(4)各種別（部）に参加する選手の資格は次のとおりとする。

●**成年**

(ア)成年の種別に参加するものは、昭和32年4月1日以前に生まれたもので、その所属は現住所または勤務地のいずれか一か所とする。なお大学生は出場できない。

(イ)成年の種別のうち教員の部に参加するものは次の資格がなければならない。

・学校教育法第一条に規定する学校のうち小学校、中学校、高校、盲学校、ろう学校、養護学校および幼稚園の校長・教員とし、非常勤講師、事務職員および実習助手は認めない。

・所属は勤務校所在地とする。

●**少年**

少年の種別に参加するものは、昭和32年4月2日以降に生まれたもので、その所属は現住所、勤務地または高等学校、高等専門学校所在地（全日制、定時制の生徒に限る）のいずれか一か所とする。

●教員は成年男子一般の部へは参加できない。

●成績採点方法は**表2**のとおりである。

表1　地区予選区分と選手チーム数

地区名	都道府県名	成年男子・教員の部	成年女子	少年男子	少年女子
北海道	北海道	1	1	1	1
東北	青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島	1	2	1	1
関東	茨城・栃木・群馬・千葉・埼玉・東京・神奈川・山梨	1	2	1	1
北信越	新潟・長野・富山・石川・福井	1	2	1	1
東海	静岡・愛知・岐阜	1	2	1	1
近畿	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山	1	2	1	1
中国	鳥取・島根・岡山・広島・山口	1	2	1	1
四国	香川・徳島・愛媛・高知	1	2	1	1
九州	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄	1	2	1	1
（開催地）	三重	1	1	1	1
	計	10	18	10	10

表2　総合順位決定方法

天皇杯種別	皇后杯種別	総合順位決定方法
成年男子 成年女子 少年男子 少年女子	成年女子 少年女子	各種別（部）の1位に12点，2位9点，3位8点，4位7点，5位～8位4.5点を与え，その得点合計（成年男子については，一般，教員の部の得点合計によって1位に12点，2位に9点，3位8点，以下8位3点とする）で総合順位を決める。ただし，同点の場合はその順位を共有し，次の順位を欠位とする。

中部日本選手権大会

長谷川（少年）、米倉（少女）に栄冠

青年は本間と日比野が勝つ

中部地区のチャンピオンを決定する第27回中部日本バドミントン選手権大会は、中部日本バドミントン連盟、中日新聞社、北陸中日新聞社の主催、愛知県教育委員会などの後援により、49年11月23日、24日の両日、愛知県豊田市体育館、トヨタ自動車工業スポーツセンターで開幕された。

各種目で熱戦がくり広げられたが、結果は次のとおりだった。

◆少年ダブルス

▽準々決勝

松田・磯野（富山）2－0中村・川上（福井）、水内・西川（石川）2－0四家・木下（石川）、宮森・酒井（石川）2－0清水・田村（富山）、長谷川・諏訪2－0里谷・川北（石川）

▽準決勝

水内・西川 2（15－7、15－1）0 四家・木下
長谷川・諏訪 2（15－7、15－7）0 宮森・酒井

▽決勝

長谷川・諏訪 2（15－7、15－1）0 水内・西川

◆少女ダブルス

▽準々決勝

古川・高岸（福井）2－1元橋・中（石川）、米倉・山西（富山）2－0金子・加藤（愛知）、石田・石垣（石川）2－0谷口・野崎（三重）、山下・川端（石川）2－0根木・二川（富山）

▽準決勝

米倉・山西 2（15－7、15－9）0 古川・高岸
石田・石垣 2（15－4、15－12）0 山下・川端

▽決勝

石田・石垣 2（15－11、4－15、18－14）1 米倉・山西

◆少年シングルス

▽準々決勝

長谷川（福井）2－0藤野（富山）、宮森（石川）2－0小山（三重）、酒井（石川）2－0鵜浦（三重）、中村（福井）2－0里谷（石川）

▽準決勝

長谷川 2（15－6、15－3）0 宮森
酒井 2（15－6、15－1、15－7）0 中村

▽決勝

長谷川 2（15－6、15－2）0 酒井

◆少女シングルス

▽準々決勝

野崎（三重）2－0根木（富山）、石田（石川）2－0槇野（三重）、石垣（石川）2－0元橋（石川）、米倉（富山）2－0谷口（三重）

▽準決勝

石田 2（11－3、11－6）0 野崎
米倉 2（11－1、12－10、11－3）0 石垣

▽決勝

米倉 2（11－1、11－7）0 石田

◆青年男子ダブルス

▽準決勝

本間・谷口 2（15－2、15－7）0 池田・畑
池田・畑（富山）2（15－11、3－15、15－7、15－5）1 北方・近藤・神戸（福井）

▽決勝

本間・谷口 2（15－11、15－5）0 長谷川・石田（石川）

◆青年女子シングルス

▽準決勝

日比野（岐阜）2（11－1、11－4）0 宮内（愛知）
池田（愛知）2（4－11、11－1、11－4）1 布上（静岡）

▽決勝

日比野 2（11－1、11－4）0 池田

◆青年女子ダブルス

▽準決勝

池田・宮内（愛知）2（15－7、15－8）0 広沢・名和（岐阜）
広沢・名和 2（15－8、15－7）0 嶋川・石川（静岡）

▽決勝

嶋川・石川（静岡）2（15－8、15－7）0 布上・浦田（愛知）

◆青年男子シングルス

▽準決勝

池田・宮内 2（15－10、15－10）0 広沢・名和
谷口・堂谷内（愛知）2（15－3、15－3）0 堂谷内（石川）

▽決勝

本間（愛知）2（15－4、15－3）0 谷口

◆青年女子シングルス

▽準決勝

本間（愛知）2（15－0、15－7）0 長谷川（石川）
谷口・堂谷内（愛知）2（15－3、15－7）0 堂谷内（石川）

▽決勝

池田・宮内 2（15－10、15－10）0 広沢・名和

◆成年男子シングルス

▽決勝

中田（静岡）2（15－4、17－15、14－17）1 南（三重）

◆壮年男子シングルス

▽決勝

畑（福井）2（15－1、15－2）0 不破（富山）

◆成年男子ダブルス

▽決勝

中田・七沢（静岡）2（15－4、15－12）0 深井・幸（愛知）

◆壮年男子ダブルス

▽決勝

内多・不破 2（15－10、15－5）0 畑（福井）・江尻（富山）

◆混合ダブルス

▽準決勝

神戸・山本 2（15－0、15－7）0 中村・水上（福井）
横山・広沢（岐阜）2（17－15、15－8、5－15）1 多田・山本（福井）

▽決勝

神戸・山本 2（15－8、15－12）0 横山・広沢



［資料提供＝愛知県協会］

ニッケイ工業
平均年令27才のヤングパワー。
(045)651-2020
●横浜市中区石川町2-84

―各地のたより―

ママさん大会に一五〇人が参加―福井市

第4回福井市婦人バドミントン大会（福井新聞社主催）は、12月7日、福井市体育館で開かれた。二十代から五十代までの婦人約一五〇人が参加、四つの部に分かれて熱戦を展開した。上位入賞者は次のとおり。

▽一部
一位＝中出・中村（宝永体協）
二位＝岡田・諏訪（足羽体協）
三位＝下川・寺島（宝永体協）
〃　深見・吉田（オーロン）

▽二部
一位＝酒井・山本（豊MBC）
二位＝石田・早瀬（オーロン）
三位＝野村・伊藤（宝永婦人）
田野井・久米田（オーロン）

▽三部A
一位＝吉田・新開（豊MBC）
二位＝村下・坂下（成羽ク）
三位＝刀禰・大日方（松本体）
大西・佐々木（松本小）

▽三部B
一位＝細江・泉畑（豊MBC）
二位＝松浦・田中（　〃　）
三位＝林・岡本（足羽体連）
徳永・市村（豊MBC）

山陽女子と倉敷工業勢が大活躍―岡山県

岡山県では11月から12月にかけて二つの大会が開催されましたが、いずれも多くの選手が参加し、非常に盛り上がった大会となりました。

⊙第29回岡山県高校秋季バドミントン選手権大会・11月3日～4日・西大寺高校体育館ほか

▽女子2～3年ダブルス
一位＝小寺・日原（山陽）、二位＝原田・郷田（山陽）、三位＝橋本・高木（山陽）、笠井・小山（山陽）・参加61組

▽女子2～3年シングルス
一位＝原田（山陽）、二位＝小寺（山陽）、三位＝岡部（山陽）、日原（山陽）・参加一一六名

▽女子1年ダブルス
一位＝森下・神農（山陽）、二位＝藤原・小野（中）、三位＝日下部・石井（瀬）、土倉・川崎（天）・参加61組

▽女子1年シングルス
一位＝森下（山陽）、二位＝神農（山陽）、三位＝石井（瀬）、日下部（瀬）・参加一二七名

▽男子2～3年ダブルス
一位＝片岡・藤原（倉工）、二位＝平田・景山（倉工）、三位＝前田・中浜（倉工）、田中・永山（倉工）・参加46組

▽男子1年ダブルス
一位＝安田・森脇（青）、二位＝林・槇野（天）、三位＝梶田・竹永（天）、久松・平島（津）・参加49組

▽男子1年シングルス
一位＝安田（青）、二位＝横山（倉）、三位＝槇野（天）、森脇（青）・参加一一〇名

⊙岡山県総合選抜バドミントン選手権大会・12月22日・岡山大学清水記念体育館

▽男子ダブルス
一位＝上野・芳上（三井造船）、二位＝岡・田中（岡大OB）、三位＝高木・加藤（岡大OB）、野崎・山崎（岡大OB）

▽女子ダブルス
一位＝原田・藤原（山陽）、二位＝小寺・日原（山陽）、三位＝橋本・高木（山陽）、三田・寺見（クラレ）

▽男子シングルス
一位＝芳上（三井造船）、二位＝高木（岡大OB）、三位＝小田（岡大）、藤原（三井造船）

初めての試み大成功

第一回家庭婦人大会―神奈川

全国各地でママさん大会が行なわれるようになっていますが、神奈川県でも、ついに初めての大会が開かれました。

神奈川家庭婦人バドミントン連盟発足委員会主催で、**第一回神奈川県家庭婦人バドミントン大会**が、11月21日、川崎市立体育館で行なわれました。

試合は、ダブルスだけのトーナメント方式で、出場者数は、7つのクラブから、39組のペアで、結果は次のとおりでした。

一位＝元岡・高橋（汐見台ク）
二位＝富安・高橋（ユーバー・ク）
三位＝小島・鈴木（汐見台ク）
宮川・瀬戸（ユーバー・ク）

全日本女子チャンピオンズ・トーナメントを見にいこう

第六回全日本女子チャンピオンズ・トーナメントが次のように開催されます。

日時＝2月2日（日）午前10時から

会場＝国立競技場代々木第二体育館（国電原宿駅下車）

入場料＝一般＝三〇〇円、高校生＝二〇〇円、中学生以下は入場無料

この大会は、昭和49年度日本バドミントン協会主催の全国大会で優勝した選手が一堂に会して、文字どおり女子のシングルス日本一を決めるものです。

当日出場予定の選手は次のとおりです。

★湯木博恵・いうまでもない全日本チャンピオン、世界の女王。

★竹中悦子・ダブルスだけでなく、シングルスでも鋭角的なスマッシュが武器。

★相沢マチ子・不振の昨年から今年は心機一転、大いにがんばってくれるはず。

★池田美加・精神的に大きく成長、実力を試合の場で思い切り発揮するようになった。

★西尾真理子・着実に進歩を続け、冷静な試合運びをする。

★北島稔子・教職員チャンピオン。ねばりが身上。

★徳田敦子・未完の大器の彼女も、ようやく頭角をあらわしてきた。

★秋本幸子・徳田とペアを組んで学生のタイトルを獲得。小柄ながら実によく走る。

★植野恵美子・高校チャンピオンの力がどこまで通用するか体当りのファイトを期待する。

今年は三回目のユーバー杯防衛の年。敵地インドネシアに乗りこんでの大会のため、楽観はできない。しかし、日本にはこのチャンピオンたちがいる。必ず、イギリスあるいはインドネシアの挑戦を退け、三たびユーバーカップを持ち帰ってくれるだろう。

その意味でも、このチャンピオンズトーナメントは、ファンの皆様に十分見ごたえのある好ゲームの連続になると思われます。ぜひ、ふるってご観戦ください。

お問合せ先・日本バドミントン協会・電話（東京〇三）四六七―三一一一（内線三五一）

ミヤモト電機
平均年令27才のヤングパワー。
(045)651-2020
●横浜市中区石川町2-84

全国大会・団体戦が開催されます!!

第一回全日本総合バドミントン選手権大会・団体戦が次のように開催されます。

日時＝2月8日（土）午後4時
2月9日（日）午前10時

会場＝国立競技場代々木第二体育館（国電原宿駅下車）

入場料＝一般・五〇〇円、高校生・三〇〇円、中学生以下は入場無料

出場チーム＝昭和49年度全日本実業団、同全日本教職員、同全日本学生、同全国高校選手権大会男女各優勝チーム

試合形式＝2複3単

この大会は、初めての試みとして開かれるもので、団体戦の日本一を決めるものです。

男女の出場予定チームは次のとおりです。

〈男子〉

◆奈良正強高（高校）
真夏の全国大会で日大山形高を大接戦の末破ったように、勝負強いチーム。

◆滋賀県（教職員）
長身の藤原、小柄ながらねばり強い藤上兄弟、久保田が中心。丁寧な試合運びをする。

◆中央大学（学生）
全日本チャンピオンの銭谷、速攻が身上の山本、拾いまくる日下、横田の特色あるチーム。

◆電電東京（実業団）
栂野尾、池田、田所、浜谷、尾崎、鈴木と選手層の厚さは抜群。

〈女子〉

◆新潟青陵高（高校）
関根、大塚を中心に、単複に安定した力を発揮する。

◆富山県（教職員）
中国遠征以来、自信をつけている塩崎、ママさんになってからますます若返った芳田（旧姓谷沢）が中心。

◆日本体育大学（学生）
陣内、山森、西尾、秋本、佐伯、古谷、谷、井上をはじめ、チームが二つつくれるほど厚い選手層を誇っている。

◆河崎ラケット（実業団）
湯木を軸に、進境著しい池田、柴山といったメンバーが、どのようなチーム力を発揮するか楽しみ。

＝なお、女子の教職員代表チームは、教職員大会が一複二単の形式で試合を行なっているため、出場チームに変更があるかも知れませんので、ご了承ください。

お問合せ先＝日本バドミントン協会・電話（東京〇三）四六七―三一一一（内線三五一）

合本ファイル発売中

一冊六〇〇円

読者の皆様から再版のご注文の多かった合本用ファイルを、このたび再び作成いたしました。

これは、穴をあけることもなく、のりも不要、紐を用いることなく、バドミントン界一年分12冊を簡単にとじて、保存しておくことのできる便利なものです。

装丁は前回と同じ、紺色の表紙に金文字入りです。

ぜひ、この機会に必要部数をお求めください。お申し込み方法と定価、送料は下記のとおりですが、諸経費、資材が値上りしておりますので、一冊あたりの価格が前回よりやや高くなってしまいました。お許しください。

お申込方法

〒150 東京都渋谷区神南一ノ一ノ一・岸記念体育館内
日本バドミントン協会・バド界編集部あてにお申し込みを!!

ファイル代一冊＝六〇〇円
に左記の全国均一送料を加え、現金書留（必ず現金書留でお願いします）で、バドミントン界編集部あてお送り下さい。

全国均一送料
一冊＝150円、三冊まで350円、四冊まで400円、11冊まで500円、15冊まで600円、20冊まで700円、21冊以上一冊増すごと30円増。

読者と編集者

前略、はじめまして

以前からの「バドミントン界」の愛読者です。私のやっている活動は、大阪府高石市スポーツ少年団バドミントン部の指導と運営です。

現在、小学校五、六年女子を中心とする三十余名のクラブです。練習は、第一、第三日曜と第二第第四土曜を市内の青少年センターで行なっております。

実力のほどは、小学生としては大阪においてトップレベルだと確信しております。しかし、大阪においては、試合相手の小学生チームは、ほとんど見受けることができません。

そこで、大阪近辺において、小中学校を対象としているサークルがあればご連絡をいただきたいのです。このことをバドミントン界の片スミにでも載せていただければ幸いです。それでは何とぞよろしくお願いいたします。

連絡先＝大阪市住ノ江区粉浜西三丁目一―一〇六―一〇一六
笹井　仁

＝**編集部から**＝

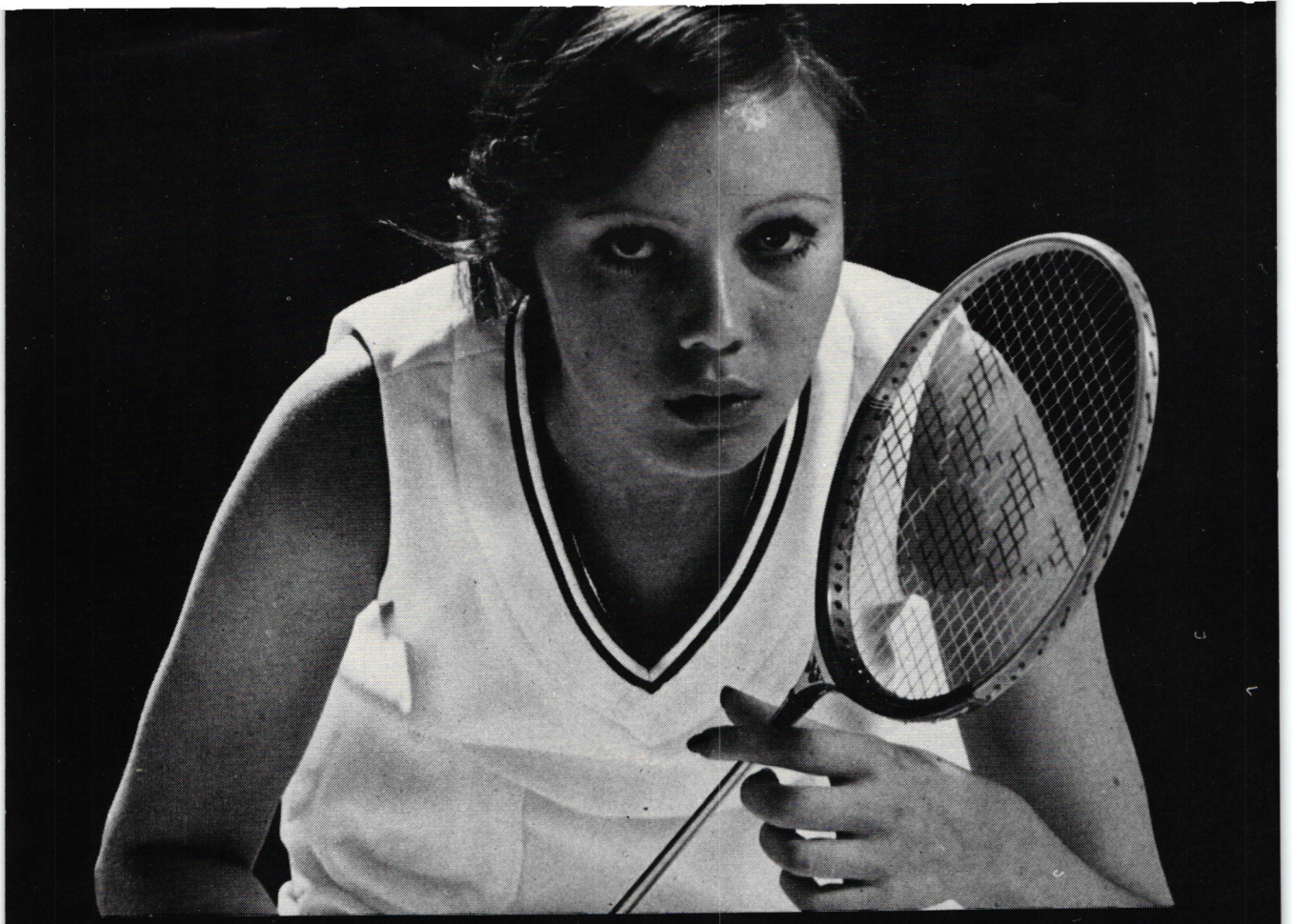
全国でサークル活動をされている人や、指導をされている方はぜひ、編集部へその活動のもようをお知らせ下さい。誌上に発表し、全国的なつながりへと輪を広げてゆきたいと思います。

編集室から

〇…今月から始まった「バドミントンのすべて」はいかがですか。ハガキでけっこうですので、編集部あてご意見、ご感想をお寄せください。それでは、次号をお楽しみに。

【バドミントン界】第63号
昭和49年12月25日　印刷
昭和50年1月1日　発行
編集兼発行人　秦　浩
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一
日本バドミントン協会
岸記念体育館内
電話　四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二―二九
明宏印刷株式会社
定価　一部二百二十円

©無断転載を禁ず



国籍は世界。ヨネックス。

ヨネヤマが
社名変更しました。

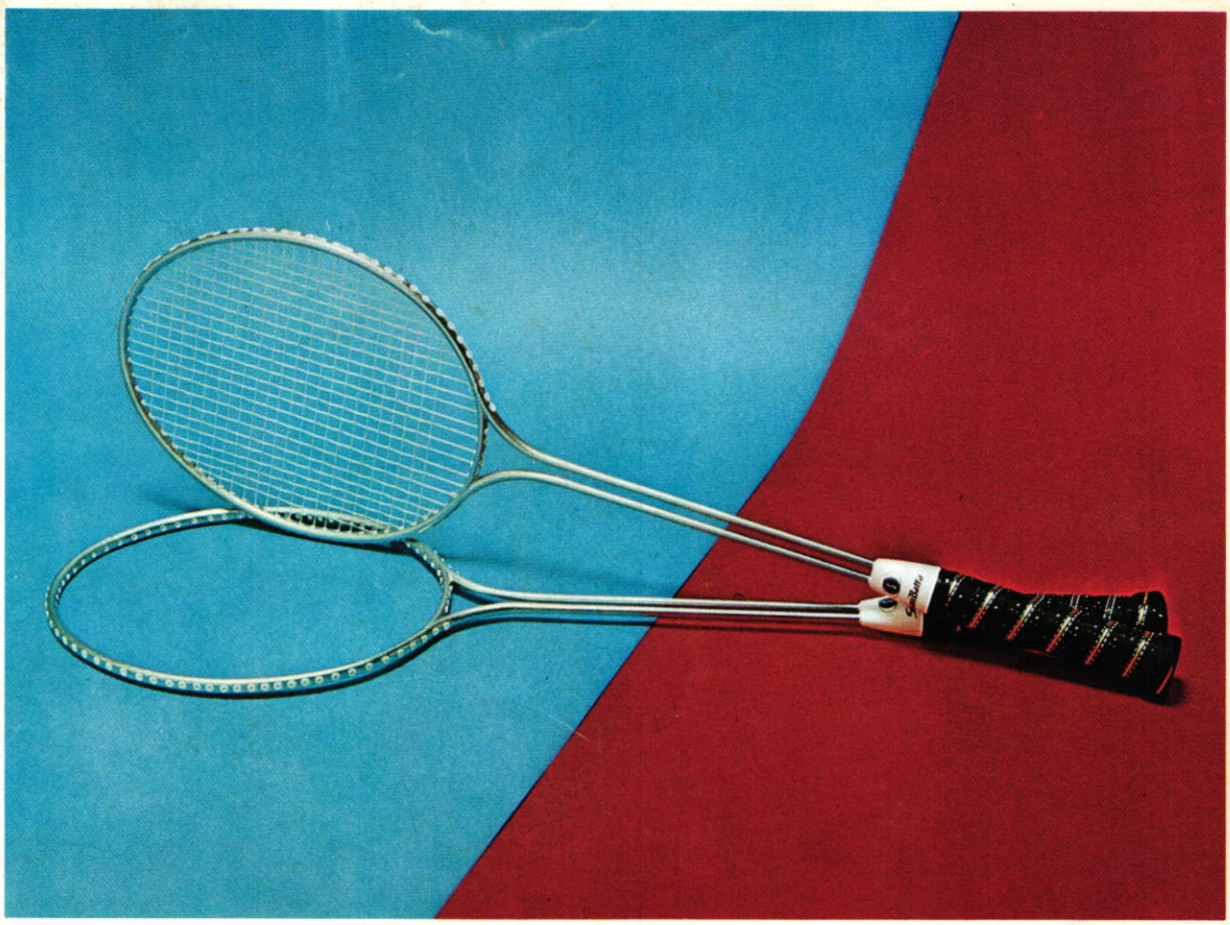
世界の一流プレイヤーに使われ、世界のコートで熱い視線を浴びてきたヨネヤマが、名前を変えました。いま、こころも新たにヨネックス。世界のレベルを決めるブランドに、ふさわしい名前です。グローバルな響きです。バドミントンを科学の目でとらえるヨネヤマの、力強い変身。ヨネックス。この5文字が、ことばの違いを越え、国籍を越えて、ひとびとの心をひとつに結びます。すでにもう、世界のひとたちはかってのヨネヤマをヨネックスと、そう呼びはじめました。さあ、あなたも。

No.9000

ハイステンレス
￥4,800(フレーム・ケース付)
￥5,400(ヨネックスシープ張上・ケース付)

YONEX

月刊「バドミントン界」第53号
昭和五十年一月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
日本体育会館内
日本バドミントン協会　定価二百二十円



ALL STEEL RACKET SunBatta TWIN SHAFT

究明され！
完成された！
S-74
ALL ROUND

プレーヤーが長い間求めていたオールスチールが誕生しました。
従来のオールスチールラケットの利点及び欠点をあらゆる角度から究明され改良をし今ここに完成され皆様の目の前に現われました。
ツインシャフトの採用によって、フレームとシャフトとのひねりが最小限に押えられ自由自在なショットを楽しむ事が出来るでしょう。
アタックによし、レシーブによし、それがS-74オールラウンドです。
◎フレームのみ（ケース付）￥5,000

SunBatta TOKYO
サンバタ